

# のんびり

13 non-biri  
2015 Summer







表紙の  
撮影場所

# 横手市十文字

じゅうもんじ

## 「まめでらがく？」

今回の表紙撮影の舞台は横手市十文字にある、「道の駅十文字」、通称「まめでらがく」。「まめでらがく」とは、秋田弁で「お元気ですか？」という意味です。ここ、道の駅十文字は、生産者さん、お客さん、スタッフ、みんなの距離がとても近く、いつも賑わっています。そして、その中心には小川健吉<sup>けんきち</sup>駅長がいて、みなさんを笑顔で見守っています。その様子はまるで一つの学校のよう。ということで、今号の表紙は「まめでらがく学校」のクラス写真イメージして撮影しました。後ろになびく大きな校旗には、校章（道の駅のロゴマーク）と「まめでらがく」の文字が光ります。本誌「のんびり」も、新年度第1号目となる今号。新学期を迎え、久しぶりに会った仲間たちに挨拶をするような気持ちで、みんなを揃えて「まめでらがく？」でスタートです。新しいスタートにびったりのピカピカの日差しはなか、みんなの笑顔いっぱい撮影の様子は、「のんびり公式ウェブサイト」でもご覧いただけます。

「のんびり」表紙写真ができるまで。写真家浅田政志と奮闘したその過程を公開中！

<http://non-biri.net>



のんびりしたいは  
みんなのきもち  
のんびりできるは  
ゆたかなあかし  
のんびりまっすぐ  
秋田のくらし

秋田にはうまい飯とうまい酒があります。  
その豊かさが秋田の実直なものづくりを支えてきました。  
そして同時に、秋田の人々のなかには  
大らかで力強い「のんびり」精神が育まれました。  
そんなのんびり秋田は  
右肩上がりの経済成長という  
ゴールなきゴールに向かい  
懸命に走ってきたニッポンにとって  
まるでピリを走るランナーのように  
映っていたかもしれません。  
けれど世の中は変わりました。  
順位など気にせずのんびり歩いてきたことが  
まさに「ノ・ン・ビ・リ」となる時代がやってきました。  
日本人の多くは今、  
うまい飯が食べられてうまい酒が飲めるという  
当たり前の豊かさについて考え直しています。  
しかし秋田では昔も今も、ずっと  
それが人々の暮らしの真ん中にありました。  
ピリが一番だ。上だ下だ。と  
相対的な価値にまどわされることなく  
自分のまちを誇りに思い、他所のまちも認め合う。  
そんなニッポンのあたらしい「ふつう」を  
秋田から提案してみようと思います。

のんびり編集部



CONTENTS

1 のんびりまっすぐ秋田の暮らし

4 特集

# 高質な田舎をめぐらして

## 「道の駅十文字から見る未来」

6 第1章 道の駅十文字との出会い

10 第2章 小川健吉という人(前編)

16 ほかにもあります 秋田の道の駅

18 第3章 小川健吉という人(後編)

24 第4章 健ちゃんファミリー

32 第5章 無茶なお願い

38 最終章 幕があがる!?

46 ちょうどいいかんてん

第1回 冷水希三子さんと美郷町

51 はぐくむ道具

大館曲げわっぱ 柴田慶信商店

57 下戸式秋たんぼう 福田利之

第13回 秋田市名物、貝焼き剣玉エリンギー

62 non-biri akita access map

秋田で暮らす美しい人々  
あきたびじん



親子



道の駅 十文字 駅長  
小川健吉さん

息子  
小川章吾さん

### 今号のあきたびじんぶつ 関連図

のんびり 編集チーム

県外メンバー

秋田メンバー



藤本智士



浅田政志



鍵岡龍門



山口はるか



服部和恵



矢吹史子



田宮慎



船橋陽馬



今井春佳





高質な田舎  
をめぐりて

道の駅  
十文字から  
見る未来

取材・文 = 藤本智士  
Text = Satoshi Fujimoto

写真 = 浅田政志 / 鍵岡龍門 / 船橋陽馬  
Photo = Masashi Asada / Ryumon Kagioka / Yoma Funabashi

絵 = 石川鉛子  
Illustration = Ameko Ishikawa

「地方創生」なる言葉が踊るいま、そもそも「地方」という言葉が意味するところを平たく言うなら、それはやっぱり「田舎」で、ならばその対極にある「都会」をめざすのが「地方創生」ではなく、あくまでも「田舎」としての質を高めていくことが「地方創生」なのだと思います。

秋田という土地を一括りに語るいい加減さを、どうかよき加減と理解いただいた上で、秋田はどう背伸びしたって「田舎」です。しかしそこそが魅力なのですと、都会に住むよそ者の僕が言うのは簡単ですが、そのことをそこに住む人たちに実感をもって伝えるのは簡単ではありません。しかしずっと長く秋田に暮らす人に「まずは田舎であることを受け入れ、その上で、より質の高い田舎をめざそう」と言われたら、そこに住む人たちはいったい何を思うでしょうか？

実はこの「高質な田舎」をめざすというのは、秋田県の佐竹知事が語った言葉のなかにありました。そもそも「高質」という言葉は存在しません。けれど、その意図するところは、決して「上質」でも「高品質」でもないのだという、ある種のわびさびを僕はそこに勝手に想像し、おおいに共感しました。では「高質な田舎」とは具体的にどういうことをいうのか？と想像してみたときに、僕の頭のなかに浮かんだのが今回の特集の舞台である「道の駅十文字」でした。

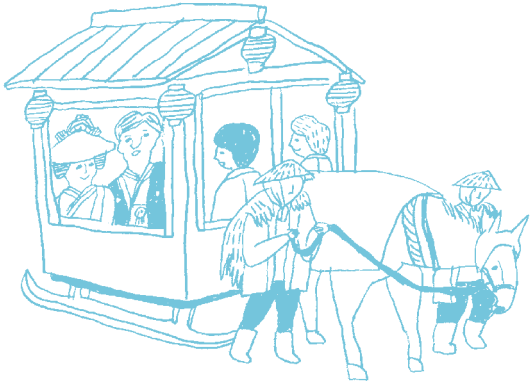
今回の特集は、地方創生の肝ともいわれる道の駅の使命について考える特集です。読後、その先にあるニッポンの未来を共有できるとよいなあと思いつつ、そこは『のんびり』。今回もまるで思いもよらない方向に転がっていきます。のんびりじっくりお付き合いください。





### きっかけは3年半前

今回の特集は僕のなかで満を持してという気持ちがあります。突然ですが、ここで話は3年半前へと遡ります。2012年1月28日、まだ本誌『のんびり』がスタートする前のこと。馬そりにゆられ、花嫁が峠を越えていく羽後町の「花嫁道中」という幻想的な行事を取材するべく秋田県を訪れた僕は、取材の前にかまくらで有名な横手市の、その名も「かまくら館」に寄り道。そこに飾られていた非売品のこけしに一瞥惚れしてしまいます。



どうしてもこのこけしが買いたい! と思った僕は、こけしの作者である本間功さんという工人がお住まいの横手市十文字町の道の駅に行けば、同じ物が売っているかもしれないと「かまくら館」のスタッフさんに教えてもらいます。そこでまっすぐ十文字へと向かった僕は、すぐに道の駅を発見。夜に控えた花嫁道中取材の流れもあって、ムービーカメラをまわしながら建物に入っていったのですが、目的のこけしのことを忘れそうになるほどに充実したその品揃えに大興奮。カメラを忘れてひたすら買い物をしていると、ムービーをまわしていたカメラマンさんが「あの、道の駅のスタッフのかたが、ちょっと事務所においでとおっしゃっ

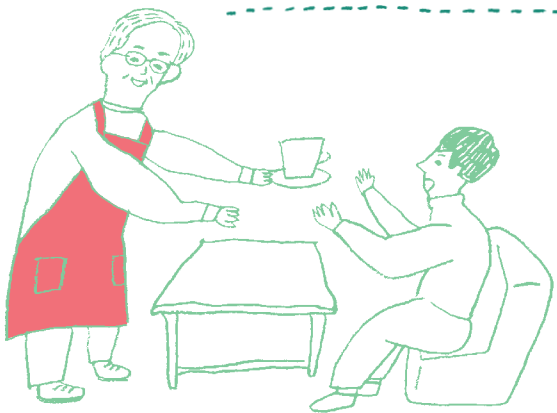


道の駅  
十文字との  
出会い

てます」と一言。あっちゃー! 許可をもらわず撮影していたから、これは確実に怒られるな、と覚悟して事務所に入っていくと、赤いエプロンのおじさんが「まあまあまあコーヒーでも」と笑顔で僕たちを迎えてくれました。

### 衝撃の出会い

そのおじさんは、道の駅十文字の駅長であり、株式会社十文字リーディングカンパニー社長の小川健吉さんでした。怒られるとばかり思っていた僕は、予想外の展開に戸惑うまま、そこに着席してコーヒーをこちそうにな



りました。小川さんたちはおそらく、僕たちの格好や振る舞いから、県外からやって来ていることを察したのだと思います。しかしまるで素性の知れない僕たちを招き入れてくださることの意味がわかりません。しかし、驚くのはここからでした。この後、まさかの光景が目前で繰り広げられたのです。



自己紹介も早々に、小川さんは突然立ち上がり、その場にいらっしやった近所のボランティアのかた数人とともに歌を歌い出したんです。その名も『道の駅十文字音頭』。呆気にとられる僕たちをよそに、全力で歓迎の気持ちを表現してくださるみなさんを見ているうち、僕はその意図やら理由やら作法やらといった、そういう類いのことを考える気持ちが消えて、ただひたすらに感動しました。



## 3年間あたためた感謝

そのあと結局1時間ほどいたような気がします。僕の住まいは兵庫県だということ。関西からここまで車で北上してきたこと。本間さんのこけしを求めて偶然ここにやってきたこと。編集者という仕事をしていること。そんな僕の簡単な自己紹介とは裏腹に、小川さんは初対面の僕に、道の駅十文字をはじめ前のお話や、若くして亡くなられた奥さんのお話まで、丁寧に話してくださって、僕は、偶然の出会いとはいえ、このお話をどこかでカタチにしなければ編集者として失礼だと思えました。

また、当時僕は秋田という土地にとんと興味を持ちはじめた頃で、よそ者の僕が、秋田の人たちと深くコミュニケーションをとっていくには、どう振る舞うことが大切なのだろう？と必死で考えていた時期でもありました。まるで正反対だと語られることも多い東北と関西。知らず構えてしまっていたであろう僕を、丸裸で「ようこそ！」と迎え入れてくれた初めての秋田人が、小川健吉さんでした。

## 音声テープ

ここでそのときに録音していた音声テープを活字化しておきたいと思えます。ちょっと読んでみてください。

**小川さん（以下敬称略）** これがね「劇団まめでらが〜」の旗揚げ公演。2年前の記事です。

**藤本 劇団？**



**小川** 劇も、毎年秋にやるの。  
**藤本** へえ〜！！  
**小川** 夜、うちのスタッフがたが仕事終わってから、ボランティアの人がたここに来てもらって、通し稽古をやるんですよ。

**藤本** スタッフさんとボランティアさん、みんなやるんですね。

**小川** そう。ストーリーだけはこちらで考えて、セリフは各自が考える。そうすると、おもしろくなるんですよ。最初はね、「私なんかできないわ」って言うてる人がたが、熱入ってるんですよ。最初ここがオープンするとき、脚本を全部書いて朗読劇をやったの。朗読劇だからカーテンの向こうでみんな見えてないのに、それでもあがっちゃって、国語の教科書の棒読みですよ。

**一同** あはははは。  
**小川** こりやダメだなんて思って、セリフは決めないようにした。ストーリーと流だけ考えて。  
**藤本** へえ〜！ すごい！

**小川** 要はね、感謝なの。感謝。自分たちに何ができるかって言ったってね、お金もないなかでだから、感謝なの。秋田県は、毎年1万2千人くらい人口が減ってるのよ。

**藤本** 毎年ですか？

**小川** そうなの。隣の旧雄物川町ってあるの。ちょうどその地域ぐらいいの人口なんだけど、そういう町一つ分ほどの人口が毎年減っていつてるの。

**藤本** そうかあ。じゃあ経済的には厳しいんですね。ちなみに小川さんとはもともと何されてたんですか？

**小川** ぶどう農家です。  
**藤本** へえ〜。



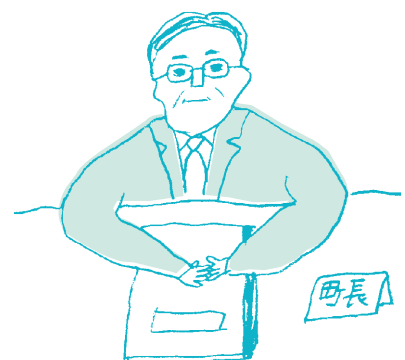
庁舎建設のための土地に、道の駅を作ることを考えます。それがこの道の駅十文字でした。

**藤本** いろんな気づきをいただきました。本当にありがとうございます。

**小川** いやいや、またぜひ寄ってください。

**藤本** はい、必ずまた寄ります。ありがとうございます。

もう一度言います。これが3年半前の出来事でした。



まだ小学生の子とも2人とどうやって生きていけばいいかと。出稼ぎにもいけないし、金はないし。で、家には町会議員しかないんじゃないかと思ってる。

**藤本** 選挙に出たんですか？

**小川** そう。

その後、いろんなかたの協力を得てなんとか議員になることができた小川さんは、何度かその報酬をもらいうちに、このお金は町民みんなの税金なのだから、地域のために頑張らねばと考えるようになり、そこから地域のためにいったい何ができるか？と考えるは行動し、最後はなんと町長にまでなります。しかし町長になったものの、当時の市町村合併推進の流れには抗えず、合併すれば不要になる新しい役場

**藤本** 喋るなあ(笑)。

**一同** (笑)。

**小川** 私喋るんですよ。泡出して。

**小川** いまは息子がやってる。  
**藤本** 生産してたかたが、いまは小売りもされてるんですね。  
**小川** そうなの。私はね、一風変わったの。自分で直接売り込みに行くんですよ。20代に仲間を作ってたね、東京・神奈川・宮城の生協さんや、県内のスーパー3つやって、とにかく一番よかったのがね、収穫する前に1キロなんぼって自分で値段決めてやれたの。おもしろかったですよ。それがいまに結びついてるのかなあって。

**藤本** なるほど。

**小川** だから、この道の駅は外にもガンガン売りにいくんです。誰かに頼る前に、自分たちがどうやったら販売できるかって、考えて、動いて。……しかし喋るね。







2015年5月7日

衝撃の出会いから3年半が経ち、あらためてやってきた横手市十文字町。午前11時に道の駅十文字に集合したのんびり取材チームは総勢9名。いつものながらの大所帯。今回はスケジュールの都合で、特集取材に入る前にまず表紙撮影を行います。道の駅十文字を一つの学校に見立て、道の駅に関わるみなさんと集合写真を撮るといふ今回の企画。のんびり秋田チームがあらかじめ手配してくれていた参加者のなかには、3年半前にここへやってくるきっかけとなった、こけし工人の本間さんご夫婦もいらっしやっていて、お元気そうな姿に胸がいっぱいになります。

予定どおり午後2時には撮影を終了した僕たちは、そのまま道の駅十文字のレストランで遅めのお昼ごはんを食べながら今回の取材の戦略会議をはじめめることに。まずは僕から3年半前の出来事を話し、今回の特集の主旨を共有。その際に、のんびり秋田メンバーが見せてくれたのが、秋田で圧倒的購読数を誇る、秋田魁新報の3月付けのとある記事のコピーでした。



『横手・ふれあい直売十文字 売り上げ過去最高更新 昨年1年間 3億7400万円』

道の駅十文字内の農産物直売所の売上が好調であるという内容の記事に、僕は今回の特集に対するある種の説得力をもらったと同時に、伝えたいことの本意が遠ざかってしまうような不安も覚えました。そもそも僕は、先述のとおり、道の駅十文字が経済的にいかに成功しているか、その秘密を探りたいと今回の特集を組んだわけではありません。ゆえに今後、本特集において、道の駅十文字の成功の秘密！とか、地方創生の鍵はこれだ！とか、こっそり教えます物産ビジネスの7つの法則！みたいな流れは残念ながら皆無です。しかしこれからお届けする内容

のその先に、この記事にあるような経済的成功があることも事実。ゆえにもし本特集にそのような成果に繋がる秘訣を求めるのならば「切実さ」と「覚悟」と「感謝」。それとあと一つ「家族」というキーワードをもとに、それぞれが汲み取ってくればと思います。

さて、話を戻します。数字だけでは見えてこない「道の駅十文字」のスペシャルを丁寧に紐解いてみることを目的に、取材を進めることを決めたのんびりチーム。まずは駅長の小川健吉さんにお話を伺いたいと、お仕事の合間に早速時間をいただきました。

道の駅十文字 駅長  
株式会社十文字リーディングカンパニー  
代表取締役社長

小川健吉さん (66歳)





一同 失礼します！  
 小川 (名刺を配りながら) どうも、小川です。  
 矢吹 (小川さんの名刺に描かれた道の駅のキャラクターを見て) 「さくらんぼばあちゃん」って公募されたんですよね？



小川 そう。ただね、意外や意外、年配の女性のかたに、あまりいい印象を持たれなかったんです。素直に、愛情を込めてやりましょうってやったのに、本物の人がたが、馬鹿にされたようだって。  
 藤本 難しいもんですね。

小川 そうなんだ……。おい、リーダー！ 小松さん！ 真奈美さん！ いねが？ ちよっと、私がなぜ立っ

てるか。いまね、はじまるんですよ。

矢吹 何がはじまるんでしょうか？

小川 今日の第一幕が。劇場が。

矢吹 劇場！

小川 うちは劇団作ってるの。

藤本 お！ 出た！

小川 自分たちで必ず年に一回やってるんですよ。

一同 へえ〜！

小川 座長はリーダー。毎年12月に、お客さまへの感謝デーをするんですよ。(スタッフさんに向けて) ちよっとみなさん、こっちに来て。はい、歓迎の歌です。うちのリーダーの榎直です。

一同 (拍手)

小川 それから、うちのスタッフの小松キミ子。

一同 (拍手)

小川 それから、ボランティアスタッフの三浦トキ子さん。あと、うちのスタッフの小川晋です。

一同 (拍手)

小川 そして、私、小川健吉。みなさんに歓迎の意味を込めて、歌でおもてなしをしたいと思います。

一同 おお〜〜!!! (拍手)

小川 さ〜んはいっ。♪ みんなが集まる サロンに〜は〜♪

藤本 へえー。

小川 だから、お友だちみたいにしよう。ちよっう行くから、早いうちに治療して重い病気にかからないという。非常に健康の町ということ。だけでも心が病んでたのよ。

一同 う〜ん。

小川 プライドを持ってる人ほど、外に自分を発散できないっていうの？ 子どもさんがたが大学とかで県外に出て行くでしょ。そうすると帰ってこない。そういうなかで残ってるのは、お父さん、お母さん。あるいは私みたいな、ひとりになった人。そんな人がたが自分をさらけ出せる場所がないもんだから、なんとしてでも人が集える場所を作らねばとね。だからふつうの道の駅じゃなくて、来たらほっとするっていう、そういうところをね。

藤本 なるほど。歌詞にもサロンって出てきましたよね。

(そこでリーダーの榎渡さんがケーキを出してください)

小川 俺、いいよ。

榎渡さん(以下敬称略) あ、それ社長のでねえっす。

一同 あははは。

小川 これは、この道の駅で売って

道の駅十字音頭  
 一、みんなが集まるサロンには  
 いつも明るい笑い声  
 はずむ話に花が咲き  
 今日も元気な道の駅  
 どんとこいどんとこい  
 道の駅  
 どんとこいどんとこい  
 十字



るの。みなさん食べて。

一同 いただきます！

藤本 うまい！

矢吹 しっとりしてる。美味しい。

小川 こういうの作ってくれるから嬉しいの。

藤本 お話戻しますけど、そもそも売りたいってことじゃなくていうのは、この町に住むかたがたが交流してもらえようなサロンを作りたいかっていうことですか？

小川 そう。そうなのよ。いわゆる、癒やし空間を作りたい。それでこ





道の駅を作るときに、県外のいろいろな道の駅を見て回ったけども、私の思ってるようなところがないのよ。みんなそれぞれよくやってるけどもね。でも私は同じ屋根の下に全てがあっても、心の寂しい、私も寂しいんだけど、そういう人がたがさりげなく来て、会話をしたりしてね。だからトイレもできるだけ大きめのトイレを作ろうと。ゆったりとしたね。そしたらね、それも正解です。朝はラッシュ。地域のかたがたがね、自分の家のトイレよりもこっちまでくる。

一同 (笑)。



**小川** ほんと、ほんと。リーダーがよくわかりますよ。

**矢吹** リーダー、そうなんですか？

**樋渡** ですね。いつも同じかたたちが(笑)。

**小川** ラッシュですよ。

**矢吹** 家のトイレより落ち着くんた。

**小川** 落ち着くと思いますよ。

**矢吹** 植物もたくさんありますよね。

**小川** これね、全部うちのリーダーがやってるんですよ。

**矢吹** お手洗いで生花ってあまりないと思うんですよ。造花だと思ってるから、ここは生花で、売ってるお花がちゃんと飾られてて。

**小川** リーダーですよ。リーダーが全てやって、それをうちのスタッフが補助的にやって。サロンのところにお魚がちょっといるでしょ。ああいうのも全部リーダーが。

**矢吹** すごいですね。

**小川** まめなところがある。いろんな人がたがね、うまくコラボして癒やしの空間ができて。スーパーさんとかデパートさんとか行けば、休むところもあるかもしれないけど、何かを買わなきゃいけないっていう思いがある。こっちは、それは二の次でいいから、ふらっと来て、何もなくてもいいからって来て、そういうのをね。それが原点だから、それだけは忘れるなって、リーダーやスタッフによく言ってます。そして、トイレも自分たちが掃除することによって、来たお客さんがたが「ああ、ここはやっぱり違うな」と思うはず。だから業者さんに任せないで、うちのスタッフがたが朝7時からトイレ掃除して。そういうのが活かしてるんじゃないかなと。

**藤本** なるほど。

**小川** そうですね、そこではじめて、いよいよ経営だからね。やっぱり物を買ってもらわないといけない。あるいは、食べてもらわないといけないという。

**藤本** ついさつきと言ってること真逆



だ(笑)。

**小川** そう(笑)。そうなの。だけど、2番目でいい。1番目は、来てくれた人が癒やされる、ほっとする。私みたいなのがいて、喋る。

**浅田** 小川さんは、これまではどういうお仕事されてたんですか？

**小川** 私は農業。農業っていうか、ほとんど出稼ぎだったけども。

**藤本** 以前伺ったとき、ぶどうを作っておられたって。

**小川** そう。いまは、うちの息子がぶどう専業です。

**藤本** へえ。

**小川** おもしろい農業をしたいという思いがずっとあって。なんで農家の人が自分で作ったものに自分で値段付けられないんだらうなっていうのをずっと考えて。思い切って仲間4人で、自分たちで開拓してみようって。それで名刺作るのがおもしろくてね。『ぶどう研究会、小川健吉』ってね(笑)。

**一同** (笑)。

**小川** 1ヵ所開拓するのに3年はかかりましたけど。だけど全部がおもしろかったね。ぶどうを収穫する1ヵ月前に値段を決めてやったの。市場の値段関係なく。おもしろかったですよ。

一同 へえ。

**小川** だから、金が貯まる貯まる(笑)。

一同 (笑)。

**小川** 貯まるの。だって、作ってるうちにそろばんはじいてるから。

**藤本** へえ。そういうことがいまだ道の駅に繋がるんですね。じゃあ、売り場にあるものの値段を付けてるのは？

**小川** 全部、農家の人がた。私たちは一切付けません。

一同 へえ。

**小川** やっぱりね、おもしろい農業をやってもらいたい。最初に道の駅が完成したとき、農家の人がたは小遣い稼ぎでいいって言ったんですよ。でもそれじゃダメだと。小遣い稼ぎでやるんじゃなくて、自分のうちの農業経営が、



く兄のほうが42歳近くになって一人前になって。ここで最初は20万そこらしか売らなかつた息子が、去年はぶどうだけでそうとう売ってましたよ(笑)。

一同 すごい！

**小川** それに、スーパーとか生協とかもあるから、そうとう頑張ってるはずですよ。

**矢吹** すごいなあ！

**藤本** 3年半前にやってきたときも、ぶどうの話はすごくよく覚えていて、JAがダメとかそういうことではなくて、シンプルにこっちの農業のほうが楽しいでしょ！ っていうところにも

のすごく共感したんです。

**小川** 当時は20代、30代そこらで、どんどん突き進んでたから、正直、私のことあまりよく思わない人がたもいたと思うの。でもいまでは「健ちゃんのこととおりでた」「ああ、健ちゃんのやりかた、正解だったなあ」とって、言ってくれる人もいてありがたいですよ。

と、健ちゃんこと小川健吉さんのお話はこの後もさらに盛り上がっていくのですが、ちょっと中休み。後半、第3章へと続きます。



# 道の駅



## ほかにあまた

十文字だけじゃない！ 秋田県内には全部で30もの道の駅があります。地域ならではの魅力がいっぱいの道の駅の中から「のんびり」お気に入りの7カ所をご紹介します！

### 6道の駅

#### さんない

秋には、特産の「山内いものこ」がずらり。粘り気の強い「いものこ汁」で心も体もぽっかぽか！



### 7道の駅

#### おがち

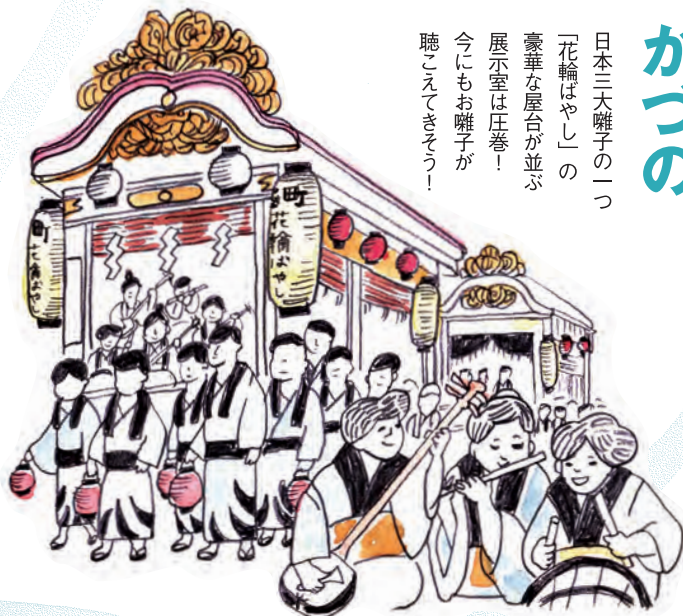
世界三大美女「小野小町」の生誕地といわれることから、建物も「市女笠」がモチーフに！



### 1道の駅

#### かづの

日本三大囃子の一つ「花輪はやし」の豪華な屋台が並ぶ。展示室は圧巻！今にもお囃子が聴こえてきそう！



### 3道の駅

#### てんのう

産直やお食事処だけでなく、隣接施設には温泉、スカイタワー、スポーツ施設などがあり大充実。家族で1日楽しめる！



### 2道の駅

#### あに

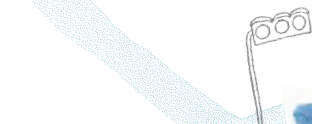
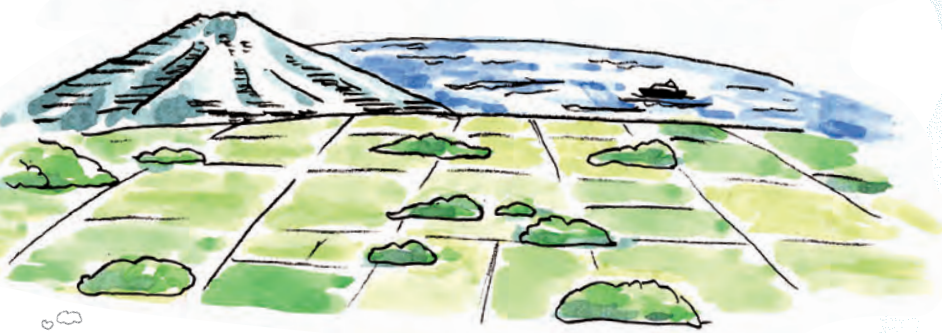
熊肉、熊の油など「マタギの里」ならではの品揃え！名物の「バター餅」はマタギも大好物！



### 4道の駅

#### 岩城

日本海をバックに打ち上げられる花火大会は、夏の風物詩！砂浜で美味しい海産物を片手に眺めたい！



### 5道の駅

#### 象潟

展望塔から見ると、鳥海山 九十九島、日本海の雄大さに感動！ここからの夕日はひときり美しい！



### 1かづの

鹿角市花輪字新田町11-4  
0186-22-0555

### 2あに

北秋田市阿仁比立内字家ノ後 8-1 外  
0186-69-2575

### 3てんのう

湯上市天王字江川上谷地 109-2  
018-878-6588

### 4岩城

由利本荘市岩城内道川字新鶴湯 192-43  
0184-73-3789

### 5象潟

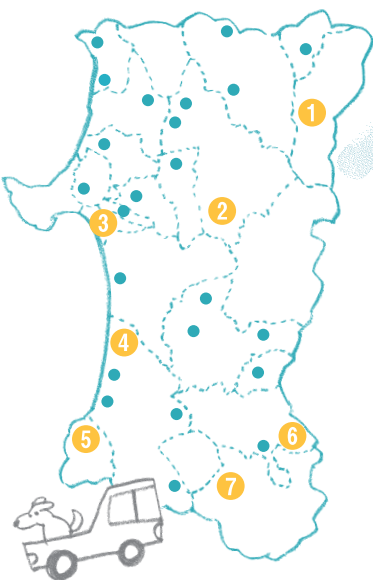
にかほ市象潟町字大塩越 73-1  
0184-32-5588

### 6さんない

横手市山内土測字小目倉沢 34  
0182-56-1600

### 7おがち

湯沢市小野字橋本 90  
0183-52-5500





小川健吉  
と  
いう人  
（後編）

第3章



道の駅十文字の大黒柱として大きな一つ屋根を支える健ちゃんこと、株式会社十文字リーディングカンパニー社長、小川健吉さんインタビューの続きです。

**藤本** 道の駅ができたのは、町長をやっているときですか？

**小川** 町長をやっているときに、自分から発案して、できたのは辞めてから。この十文字ってところは非常に交通の便がよくて人口が減らない。それから税金もね。さっき言ったように、ここに住んでる人がたは裕福なのよ。だから、この会社作るときも、隣の増田町と十文字町の住民で公募をしてもらって。

そしたら、倍率が3倍なのよ。株主になりたいうっていう人が。

**一同** へえ。

**藤本** その会社が十文字リーディングカンパニー。

**小川** そう。リーディングっていうのは、地域をね、ただ儲けるんじゃないかって、常に進行形のなかでリードして、地域貢献していこうではないかっていう。株主のみなさんがたで決めて。i n gをつけてね。少しは地域に貢献してるんじゃないかなと。

**藤本** いや、少しどころじゃないですよ。そもそもサロンを作りたいって思ったときに、なんで道の駅がいいと思っただんですか？

**小川** あのね、道の駅がいいっていうのは、トイレでもなんでも、誰でも気を遣わずに自由に使えること、その次の理由として、この産業は農業だったんですよ。特に自分は20代の後半から、自分で産直をやってたから、産直だったらなんとかできるかなと。それに商売やってる人がたが、非常に落ち込みはじめたんですよ。それで産直をやればいいんじゃないかってことで道の駅にしようよ。ところが最初はね、猛反対されたんですよ。

**一同** へえ。

**小川** 100人いたらね、99人反対ですよ。

**一同** えいっ！！

**小川** 理由は何かっていうと、十文字は秋田県では珍しい、第三セクターのない町なんです。そういうのは作るべきじゃないっていうのが歴代の町長さんの考えで。それだから、自分たちが金を投資してやるっていうのにみんな心配してね。でも、この土地は役場を建てていうので前の町長さんが造成しておいたけど、ずーっと寝たままだったのね。だからなんとかして町のためにならないかって。でも猛烈に反対されたわけ。町民も反対。議会も反対だけでも、町長がそこまで言うんだったら、先駆けてやってる道の駅の良いところ見せてあげてってパスで議会の人がたと商工会と町の有識



者って言われる人がたを連れて歩いたのよ。そうやって少しずつやって、通ったのよ。

一同 おお。

**小川** ところが、さらなる問題があった。道の駅っていうのはだいたい郊外にあるもんだけど、十文字には郊外がないのよ。湯沢から旧平鹿町の間(国道)13号を2分そこらで通過してしま(笑)。十文字は狭いから、それで計画が止まったけどもね、諦められないからね。で、たまたま13号の陳情で、仙台の整備局に行くときがあったのよ。それで陳情が終わって局長さんとお茶飲むときに、このときを逃しちゃいけないなあと思って言ったのよ。そうしたら、その局長さんなんて言ったかという「小川町長さん、素晴らしい！」と。「これからは人のいないところに道の駅作ってたダメだ。人の住んでるところに道の駅作らないと。私、そのための本を出すところなんです」と。

一同 うわあ~~~~!!!

**小川** そしたら、すぐOKです。

**一同** ええ~~~~!

**小川** それは何かかっていうとね、人の住んでるところで、いまいろんな災害が起きるでしょ。人が集まれる、頼っ

ていける防災ステーションになるべきだと。車だけで行けるところだったら行けない人がいるでしょ。いろんな面で運送するにも大変だと。だから、町の中心に作るんだと。トントン拍子ですよ。それでOKが出て3年でできあがったんですよ。

**藤本** すごいなあ。あれと同じ物を作りたいんだっていうことじゃなくて、こういうものがあつたらいいっていうイメージをカタチにされたからすごい。**小川** いや実際、私が救しかった。お金を持つてると、逆に言えば、プライドが高くてね。私のように人に混ざれないっていう人、関わりが薄くなってしまう人がほかにもたくさんいる



のよ。だから誰にも遠慮しないでふらりと来れる。そういうところがあればいいなあ。それがいまうまくいってるんじゃないかなと思いますよ。**藤本** うん。それが、この道の駅の個性になってるし、経済にも繋がってるんですね。**小川** そのためにはね、この一つ屋根の下に全てがおさまらないとダメなんです。意外と道の駅は食べる所とトイレと休憩所が分かれてるところ多いでしょ。ああなるよね、難しいんですよ。

**藤本** 確かに。

**小川** なぜかっていうと、人が入っていけないのは、おっかなさと恥ずかしさ。ところがこは、バリアフリーとこじゃなく全部がわかる。だから入りやすい。入り口を一つにして、屋根を一つにして、トイレを奥にやったのがよくなったって。

**藤本** 一つ屋根の下か。まるで家族だなあ。

**小川** スタッフもおもしろいですよ。バイトに使ってくださいって来る人もいるんだけど、ほとんどの人はまず1ヵ月やってみましょうと。そこで本人

と話合って、まだ働きたいということになれば、またバイトで。そこからやる気あるな、本人もやりたいってなれば、社会保険つけて、今度は本採用って、そういう段階を踏んでいく会社です。でも最初はみんな静かなんですよ。

一同 ええ。

**小川** だけどよく頑張ってくれていますよ。

**藤本** 最後は歌い出すんだもんね、みんな。

**小川** あっはっは(笑)。私はね、うちのスタッフに、誇りを持ったほうがいいよって言うの。「道の駅は産直の人がたのチカラだけで成り立ってるんじゃないよ」と。「あなたがたが頑張ってるからここがある。でなかったら、どんどん落ちていくはずだ。それを、あなたがたが秋田市に移動販売に行ったり、どんどんエリアを拡げてやってるから、こうなってるんだよ。その誇りを十分持っていて」と。

**矢吹** よそと比べるといいよ。ですけど、ほかだとただ置いてるっていうところも。

**小川** あ、ふつうだふつうだ。ほとんどそうです。とにかく、私の役目はね、スタッフがたにも、産直の人がた





にも、誰でもみんなに言う。「私が社長をやっている限りは、どんなことがあっても、あなたがたを守るから」と。例えば、お客さんに怒られようが、役所に怒られようが、どんなことがあっても、私はあなたがたを辞めさせるつもりはないし、ただし、何かあったときは、話してくれればと。それでね、スタッフがたとは朝の8時半から20分間、朝礼という名のお茶の時間をやっ



てるんですよ。

藤本 へえ。いいなあ。

僕たち秋田をこうやって取材していると、取材中に20代、30代の人たちにあまり会う事がないんです。それこそ僕らの年代（30代中心）って、だ

いたいみんな会社に入ってサラリーマンで、バリバリ働いてるから、そもそもこういう時間に町にいないのは当然だと思っんですけど、でも自分たちの町未来について一番考えて行動してほしい若い人たちが、僕たちにはなかなか見えてこない。でも、ここは違いますよね。スタッフのみさんが単純に若い！

小川 その2人はね、25と26歳だね。

矢吹 すごくですよ！

藤本 それはすなわち経済が回ってるってことですよ。小川さんが抱いたイメージをこうやって実際にカタチにできるのは、きっと気持ちだけじゃなくて、政治力の部分もすごくあったのかなと。

小川 それがね、よかったね。いろんな部分で自分がバリケードになれる。だから、スタッフがたに何があっても、絶対俺が守ってやる。いまはなくなっ



たけど、当初はね。周りがガンガン言ってくるんですよ。だけど俺には言わない。でも実績で示していけば、自然と何も言われなくなるんです。

一同 うーん。

小川 リーダーにこの前ね、この会社においておもしろいかと聞いたら、おもしろいと。でも仕事がきついと（笑）。ほんと大変なものな。外に出るのが大変なんですよ。朝早いからね。まだ帰ってないよ。

矢吹 秋田市で出張販売されてるんですよ？

小川 うん。私が大事だと思ってるのはね、中心部なんです。中心部に行くっていうのはお年寄りが多いの。若い人は車で移動したりするから、郊外に行ったりするでしょ。中心部が大層寂しい人たち、だけど人生の大先輩のかたがたがおられる。うちの



スタッフは若いと。お客さんは孫、息子、娘みたいに接する。そういうときに、うちのスタッフはお客さんからいろんな人生経験の話をしてもらえればいいんですよ。その人がたも元気をね、うちのスタッフからもらっていただけ。そして、その人がたは必ず情がわかってね。よかったら誰かに電話かけるって。口コミの宣伝をしてもらえらんですね。それが大事でね。

藤本 中央に行くほど年配の人が多

ってお年寄りばかりなんですよ。

小川 そうなのよ。若い人たちは外に出るから。

矢吹 その人たちはスーパーで買った

くない、人から買いたいっていう。

小川 そうそう、何よりね、喋りたいのよ。自分も母ちゃんが亡くなって31年。前は働くことに夢中で。いまは寂しい。だから夜8時くらいになって、「いやあ、みんな帰るなあ。もうここに泊まろうかな」と。

一同（笑）。

藤本 あと10年くらいしたら、キャラクターをさくらんぼばあちゃんから、さびしんぼじいちゃんに変えたらいいんじゃない（笑）。

一同（笑）。

今井 広場の隅に置いてある布でできたものも、あれ、さくらんぼばあちゃんですよ？

小川 そうそう、あれがねえ、もうダメなんだ……。昔は人が入れるようになって、もう少しふくらましてただけとね。あれ、いまあそこでどうなってるかというとね、あそこね、水飲み場があるのよ。それがしょっちゅういたずらされてね。ところが寄せられないもんだから。

矢吹 あく着るみで水飲み場を隠してるんですよ。

小川 だからね、かわいそうなんです

藤本 たしかになあ。



少しお時間をもらうくらいのもりが、気づけば3時間。しっかりと小川さんのお話を伺うことができたのんびりチームは、一旦秋田市内へと戻ることに。明日以降の取材の動きについて話し合います。十文字町を引張る、健ちゃん思想が、道の駅十文字という、まさに一つ屋根の下でどのように共有されているのか、そのリアルな現場を取材したいと思った僕たちは、欽ちゃんファミリーならぬ、健ちゃんファミリーのみなさん、すなわちスタッフや生産者のみなさんなどに話を聞くことを決めます。そしてさらに、みんながそれぞれに考えていたこと。それはこの取材のゴールのようなものについてでした。『のんびり』も4年目に突入。取材チームとして経験値を積み重ねてきたみんなは、いつしか自然と『のんびり』だからこそできることについて考えてくれるようになっていました。しかしその中身についてはまだ明らかにしないでいきます。まずは明朝、朝礼という名のお茶会に参加するところから、取材を進めていくことを決め、解散します。



# 健ちゃんファミリー



5月8日

朝8時、道の駅十文字に到着。のんびりチーム全員で、昨日小川さんが仰っていた朝礼に参加させてもらいます。まずはリーダーが今日のスケジュールなどを説明、続いて小川さんが挨拶と、わずか3分ほどであっさり終了。しかし、この朝礼の最大の目的はこの後の時間にあるのです。みんな一緒にテーブルを囲み、それぞれが用意してきた朝ごはんを食べます。ちなみに今日は、小川さん自らが湯がいてくださった山菜のわらびと、差し入りの栄養ドリンクが用意されています。



**小川** リーダーの奥さんからの差し入れてね。  
**藤本** リーダーの奥さんは何されてるんですか？  
**小川** ここの副リーダーなの。  
**矢吹** そうなんですか！？  
**小川** 間もなく赤ちゃんが生まれるの。



**藤本** そうですか！なるほど、奥さんもここの大変さ知ってるんですね。だから栄養ドリンクを(笑)。  
**一同** (笑)。  
**小川** そもそももうひとりの副リーダーの堀田良平です。  
**藤本** 堀田さんもお若いんですね。おいくつですか？  
**堀田さん(以下敬称略)** 34歳です。  
**矢吹** 30代が中心なんですわね。  
**小川** はい。私も30代で。  
**一同** あははは(笑)。  
**小川** いや、泣けてくる感じがいっぱいあるのよ、この会社は。仕事難儀もそうだけでも、人の愛情。この眼鏡だってね、リーダーはじめ、スタッフのみなさんが私にプレゼントしてくれたの。  
**一同** えー！！  
**小川** セメダインでくっつけて、ずっと使ってたの。そうすると、落ちるのよ(笑)。  
**藤本** じゃあ、見かねて(笑)。  
**小川** そうそう、見かねて(笑)。眼鏡屋に連れて行かれて。申し訳ないなあと思っちゃったよ。  
**樋渡** 前の眼鏡、あまりにひどくて(笑)。  
**一同** あははは。



樋渡 ネジもなくて、爪楊枝ささって  
るがら。

一同 え〜〜!?

樋渡 真面目な話してるときにレンズ  
ポロって(笑)。

一同 あはははは。

矢吹 ほんと家族みたいですね。

小川 だから夜は、会社から帰したく  
ない、自分も帰りたくない。今日は3  
人、秋田市に行ってますね。県庁、牛  
島商店街、うちの保戸野支店。

矢吹 それぞれひとりずつ?

小川 そう、だけど相乗りで。はい、  
どうぞ食べてください。みんなにね、  
私のおとっておきのりんご食べてもらい  
ますよ。

矢吹 むきましようか?

小川 私がやりますよ。17年主婦業や  
りましたからね。

矢吹 そうかあ。

小川 子どもの弁当を作りましたよ。

藤本 お子さんは息子さんが2人でし  
たよね? 2人とも農業やられてるん  
ですか?

小川 ひとりだけが専業で農業やって  
て。いまが一番ね、親子関係がよいよ  
うな気がしますよ。自分も角が取れ  
たっていうかね。前はいろいろ言っ  
たけど。親父よくやってくれてんなっ

樋渡  
直さん



堀田  
良平さん



のよ。いまは私より上手になって、私  
をうまく使ってますよ。ちょっとほか  
のスタッフにも話聞いてよ(笑)。は  
い、彼はスタッフの井上大臣です。  
矢吹 井上さんもお若いんですね。  
藤本 おいくつですか?  
井上さん(以下敬称略) 25歳です。  
藤本 若い!  
小川 次、齋藤由佳さんです。いくつ  
になる?  
齋藤さん(以下敬称略) 今年で24歳  
です。  
一同 おお!!  
藤本 ここ来て何年目になるんです  
か?  
齋藤 今年で4年目です。  
藤本 じゃあ20歳とかから?  
齋藤 その頃ですね。もともと秋田市  
の美術短大でデザイン学んでたんです  
けど、なかなか仕事が見つからなくて  
それで、地元に戻ってきて仕事探そう  
と思って。  
藤本 デザインを勉強してたことがい  
ま活かされている部分もありますか?  
齋藤 ここで出してる新聞があって、  
そこに4コマを描いたり。  
藤本 へえ、見たい!  
齋藤 ちょっと待ってください。  
(ファイリングしたものを持ってきて

井上  
大臣さん



齋藤  
由佳さん



のよ。いまは私より上手になって、私  
をうまく使ってますよ。ちょっとほか  
のスタッフにも話聞いてよ(笑)。は  
い、彼はスタッフの井上大臣です。  
矢吹 井上さんもお若いんですね。  
藤本 おいくつですか?  
井上さん(以下敬称略) 25歳です。  
藤本 若い!  
小川 次、齋藤由佳さんです。いくつ  
になる?  
齋藤さん(以下敬称略) 今年で24歳  
です。  
一同 おお!!  
藤本 ここ来て何年目になるんです  
か?  
齋藤 今年で4年目です。  
藤本 じゃあ20歳とかから?  
齋藤 その頃ですね。もともと秋田市  
の美術短大でデザイン学んでたんです  
けど、なかなか仕事が見つからなくて  
それで、地元に戻ってきて仕事探そう  
と思って。  
藤本 デザインを勉強してたことがい  
ま活かされている部分もありますか?  
齋藤 ここで出してる新聞があって、  
そこに4コマを描いたり。  
藤本 へえ、見たい!  
齋藤 ちょっと待ってください。  
(ファイリングしたものを持ってきて

て思ってくれてるんじゃないの。

矢吹 2番目の息子さんと一緒に暮  
らしてるんですか?

小川 そうそう。途中からね。……は  
い(むいたりんごを渡す)

矢吹 ありがとうございます。……う  
ん、美味しい。

小川 私はね、みんなにこうやって食  
べてもらうのが好きなの。

矢吹 上の息子さんのお住まいは近く  
ですか?  
小川 近くですよ。  
藤本 ぶどうを作ってたっしやるんで  
すよね?

小川 いまは少し芽が出てね。あまり  
手間をかけない時期だね。

藤本 見に行きたいな。  
小川 見に行かないほうがいいですよ。  
草だらけで有名なの。うちは昔から除  
草剤使わないから。だから、あそこの  
家の畑はすぐわかるって言われるの。

一同 (笑)。

矢吹 息子さんと一緒にぶどうを作っ  
てた時期もあるんですか?

小川 ありますよ。いまもやってます  
よ。前はね、もうダメだったね。息子  
が、親には教わりたくないって。

矢吹 自分なりの考えがあったって?

小川 いや、若いときは必ずそうなる  
くださる)

藤本 あ、「ゆかの4コマ劇場」あった。

くくださる)  
藤本 あ、「ゆかの4コマ劇場」あった。  
くくださる)



矢吹 かわいい!

藤本 (読んで) めっちゃいいねこれ!  
うん? ちょっと待って、これリー  
ダーの結婚式?



小川 ほんとは演劇やる予定だったの。  
タイトルは「ザ・結婚」。そして、私  
が主役で歳の差結婚。相手は27歳かな  
スタッフのさきちゃん。私が64歳で。  
1幕は、さきちゃんのお父さんお母さ



んに申し入れに行くのね。

一同 (笑)。

**小川** 2幕が、本当の結婚式。実は本番の3日前にリーダーと副リーダーから「社長、話があります」と。「なんだ？」と。「私たち、結婚式は挙げられないけど、クリスマスに入籍したいので、お知らせさせていただきに来ました」と。「待て、なんで結婚式挙げないんだ」って聞くと「事情があって」って言うから、演劇の本番に結婚式挙げてやるから、両方の親から許可もらってこいと。そしてお客様さんにも言わないし、誰にも言わないで、その時間まで内緒にして。

一同 へえ〜。

**小川** もうお客さんたちと涙、涙、ね、素晴らしかったよね。

**矢吹** すごいなあ。それが去年？

**齋藤** 一昨年の12月です。

**矢吹** どうでした？ そのとき。

**齋藤** 社長から聞くまで知らなくて、聞いた上でいろいろ準備して。

**今井** じゃあ、3日間で全部。

**齋藤** そう。

**小川** 絶対に口外してはならんと。口外したら会社クビだよ。

一同 あははは。

(もうひとりスタッフのかたが入ってくる)

て、親がここに出荷している農家で。

**矢吹** そっかあ。

(さらにもうひとり)

**小川** はい、松森千夏さん、立ちなさい。おはようございます。

**松森さん (以下敬称略)** おはようございます。

一同 おはようございます。

**矢吹** 彼女も若いですね。

**小川** 高校卒業したばかりで。

**松森** 18歳です。

**藤本** 18歳!? 何!?

一同 はははは。

**藤本** すごいな。こんな若い人が一緒になってね。

**小川** みんな最初は静かだけど、だんだんと魔法のごとく。

**矢吹** ふふふ。

**藤本** すごい、かわいがられそうだね。生産者のかたがたに。

**松森 (恥ずかしそうに笑う)**

**小川** よし、そろそろだね。さあ、いよいよ仕事だ。

**スタッフのみなさん** はいっ。



### 見えてきたゴール

朝礼を終えた僕たちは、次々と納品にやってくるみなさんにお話を伺うべく、それぞれに分けて取材を進めます。そんななか、僕はまいちど小川さんのお話を思い返していました。道の駅十文字をめぐるさまざまな事象と小川さんの思いが一つ一つ繋がっていくにつれて、僕のなかで今回の取材のゴールとそこに向かう一つの道筋が見えてきました。僕はとにかくそのことを早くみんなと共有したくなって、

### 関わるみなさんの声

沁み入るような紅玉さんの美味しいごはんを食べながら、まずはそれぞれが取材してきたことを共有します。この道の駅ができた事でみなさんの暮らしが変化し、そしてそのことをとても感謝されていることが、それぞれの取材からよくわかりました。誌面の都合上、その全てを掲載できませんが、ここでは2人のかたのお話をご紹介します。



長澤 奈津子さん



松森 千夏さん



吉田 駿さん

**小川** 長澤奈津子さんです。

**長澤さん (以下敬称略)** よろしくお願ひします。

一同 よろしくお願ひします。

**今井** 長澤さんは、地元はどちらですか？

**長澤** 十文字です。

**今井** おいくつですか？

**長澤** 31歳です。

**藤本** みんな若いなあ。こんなに若い人がいっぱいいる秋田、初めて見たかもしれない(笑)。でも地元で働けるっていいですね。

**長澤** はい、そうですね。

(さらにスタッフのかたが入ってくる)

**小川** あー来た来た。吉田駿くん。おはようございます。

一同 おはようございます。

**藤本** 彼もまた若そうだよ。

**小川** 駿くん、おめえなんぼになった？

**吉田** 20歳です。

一同 ええ〜!! 20歳!!

**矢吹** 若い〜!! いつから入ったんですか？

**吉田** 去年の今頃ですね。

**矢吹** 駿くんは、どうしてここに入ったんですか？

**吉田** 学校を辞めることになっちゃっ



道の駅の近くにある「紅玉」というお店で、昼食がてら打ち合わせをすることを決めます。





アスパラ生産者  
小松真澄さん（32歳）  
のおはなし

**今井** 毎日卸しているんですか？  
**小松真澄さん（以下敬称略）** そうです  
ね、いまの時期は。

**今井** ご実家ですか？  
**小松** 私は嫁です。普段はじいちゃん  
が穫っています。80歳過ぎのじいちゃん  
が、頑張って穫っているんですよ。

**今井** へえ〜！ そうなんですね。  
**小松** 姑さんが詰めたり、あとは道の  
駅十文字を持ってこられる人が持って  
きてって感じで、家族で分担してやっ  
ています。

**今井** このシールかわいいですね。  
（野菜のイラストが描かれたシールが  
袋に貼られている）

**小松** はい。これは私の手づくりです  
（笑）。  
**今井** あ、そうなんですか〜！ かわ  
い。

**小松** これをつければ、見分けがつい  
てうちの商品だってわかるので。

**今井** あの、畑の様子って見れたりし  
ますか？



**小松** はい、大丈夫だと思います。ほ  
んとにアスパラしかないですよ？  
アスパラ畑に移動

小松庄次郎さん（86歳）  
小松実結ちゃん（6歳）

**今井** すみません。道の駅十文字でお  
嫁さんの真澄さんに出会って畑の場所  
を伺って。

**庄次郎さん（以下敬称略）** ははは。  
**矢吹** 腰にきそうですね。

**庄次郎** んだ。だから、曲がってしま  
った。でも穫りやすくなった。  
**一同** ははは。

**今井** 誰か来た。お孫さん

……？

**庄次郎** ひ孫だ。

**矢吹** ひ孫!? お父さん、  
何歳になるんですか？

**庄次郎** 86歳。

**矢吹** お元気でですね！。

**庄次郎** あの子いるがらよ。

**一同** ふふふ。

**庄次郎** じいちゃんの隣で寝てくれる  
んだ。

**矢吹** ほんとにー!!  
**庄次郎** ばあちゃん亡くなって3年  
なったものな。



**矢吹** そうか。  
**庄次郎** じいちゃんがかわいいそうだか  
らって。  
**矢吹** 優しいな。  
**庄次郎** んだな。

お花を販売している  
和泉青果  
和泉芳治さん（36歳）  
のおはなし



**矢吹** やっぱり違うものですか？ 道  
の駅ができてから。

**和泉芳治さん（以下敬称略）** はい、  
全然違いますね。やっぱり人の動きが  
全然変わってきましたし、社長さんも  
（人を）「待つ」っていうより「呼ぶる」。

**矢吹** 「来い、来い」って。

**和泉** はい。そういう人なので、もう  
十文字のイメージが変わったってぐら  
い。ありがたいですよ。そりゃあもう、  
**矢吹** 道の駅のスタッフのかたたちも  
すごい勉強しているし。

**和泉** そうですね。野菜ソムリエの協  
会のかたと連携組んで、試食だったり



なんだったりの提案をさせてもらって。  
私はもともと実家に戻ってくる前は、  
神奈川県海老名市のサティにいたんで  
すよ。そこでずっと青果のほうを担当  
していて、陳列だったりをいろいろと

2、3年くらいさせて  
もらってから、販売方  
法を模索して提案して。  
**矢吹** じゃあ、道の駅  
にもアドバイスを。  
**和泉** 最初の3、4年  
はずっと道の駅にいた  
ので。午後から。  
**矢吹** えっ！ そうな  
んですか!?

**和泉** 実家の青果店の  
仕事をしながら、午後から  
はずっと閉店までいて。陳  
列だったりポップだったり  
を提案をして。ははは。

**矢吹** え〜、そうなんです  
ね。じゃあ、いまがあるの  
も……。

**和泉** いやいや!  
**矢吹** そうか。道の駅そ  
のもののへ貢献もされている  
んですね。

**和泉** 例えば、自分の商品  
を、手前に横並びにしか置  
かない農家さんもいるんですけど、縦  
に並べることによって周りの人たちが  
同じように均等に機会を与えられると  
か、もう並べかた一つなので。  
**矢吹** へえ〜。

**和泉** 周りもいいものを出してくれ  
ば、それを買う人がいて、付属でうち  
のものも買っていつてくれるし、やっ  
ぱりそこは全部回るところなので。  
**矢吹** 例えばこういう花を束ねるとき  
のノウハウっていうのはどういうとこ  
ろから？  
**和泉** いや、もう全然誰から教わった  
ものでもなく。いろいろネットとか見  
てるな〜とか、ただ束ねるだけじゃな  
くて、段差にするときれいだ〜とか。  
**浅田** 独学ですか。  
**和泉** 独学です。何流でも、何派でも  
なく。オレ流で。

**一同**（笑）。

みなさんのお話はとてもリアルで、  
ますますこの町にとって道の駅十文字  
が欠かせない場所になっていることが  
とてもよくわかりました。そして、僕  
はみんなの話を聞きながら、あとひと  
り、とても大切な生産者にお話を聞か  
ねばと強く思いました。僕が描いてい  
るこの取材のゴールにその人は不可欠  
でした。その人とは小川章吾さん。小  
川健吉さんの息子さんでした。



# 無 お茶な い

第5章

## 描いたゴール

道の駅のスタッフやボランティアさん、そして生産者のみなさんがまるで家族のように一つになって成長を続ける道の駅十文字。しかしそれを支える源に、健吉さんの本当のご家族があることは間違いありません。そこでなんとか健吉さんの息子さんである章吾さんのお話を伺ってみたいと思った僕は、道の駅で売られていた章吾さんのぶどうジュースの生産者表記を頼りに、章吾さんの畑を探します。



そもそも僕が描いた今回の取材のゴールとは、簡潔に言うと、劇団でした。「劇団のんびり」。読者のみなさんには「え？」と驚かれてしまうかもしれませんが、僕はもうハッキリとこれしかない！と思いました。道の駅十文字の魅力は、小川健吉という人の「他人を喜ばせたい」というそのまっ

すぐな気持ちから、全てがはじまっています。お客さん、生産者、スタッフのために！その気持ちは、決してきれいな事ではなく、それが健吉さんの喜びであり、言ってしまうと欲望で、それゆえに純粋なのだと思えます。

そんな道の駅十文字の溢れるサービスピ精神の一つの象徴が、お客様感謝デーの日に行われるという劇なのだと思つた僕は、健吉さんからいただいた気づきへの感謝を伝えるには、僕たちが劇をして伝えるのが一番だと思えました。さすがに若干ドキドキしながらそのことについて伝える僕でしたが、さすがのんびりチーム、みんなが口を揃えて「ですよね！」と。そう思っていたのは僕だけじゃありませんでした。となれば、さあ、やることは山積みです。しかも取材日程は明後日まで。2日後、本当に公演ができるのか？ひとまずリアルな調整は置いておいて、章吾さんの畑探しを続けます。

## ついに章吾さんに

「住所的にはこのあたりのはず……」そう思って車を降りると、目の前にはぶどう畑とかわいらしい家が一軒。

表札を覗くと「小川」の文字が。よしつ、ここかも！しかし小川さんという名字は決して珍しくありません。ここが本当に章吾さんのお家なのか確かめることができず躊躇していると、突然車庫のシャッターがウィーンと音を立てて開き、中から一台の軽トラックが。そこに乗っていたのは、ま

さしく小川章吾さんでした。章吾さんに簡単な経緯を説明した僕たちは、なんとかお話を聞かせていただけなにかとお願いをします。すると章吾さん、偶然にも本誌『のんびり』を読んだことがあるとのこと、いきなり訪問した僕たちを招き入れてくださいました。

健吉さんの長男

小川  
章吾さん (41歳)







藤本 いいお家ですね。ご家族は？  
**小川 章吾さん（以下敬称略）** 3人です。奥さんと小学1年の子どもが。（小川さんがどうジュースを注いでくださる）  
 藤本 もうもう全然、おかまいなく。  
 一同 いただきます！ 美味しい〜！  
 藤本 昨日今日と、健吉さんがいろいろお話をしてくれて。気づけば3時間（笑）。  
 小川 （笑）。  
 藤本 本当によく喋りますよねえ（笑）。  
 一同 ははははは（笑）。  
 小川 その分、（自分が）喋らないから、  
 一同 ははははは（笑）。

矢吹 ね！ 本当に親子なのか疑いたくなるぐらい（笑）。  
 小川 そうなんです。  
 藤本 ねえー。でも、健吉さんのあの人柄がそのまま道の駅の空気になってる。  
 小川 そうだと思います。  
 藤本 章吾さんがどう作りをはじめられたのは、いつですか？  
 小川 26歳からです。  
 藤本 それまでは？  
 小川 それまでは大学を留年、留年で、最後中退してこっちに戻ってきた。  
 藤本 元々、大学に行かれるときは、「こういう仕事をしたいな」とか何か、明確にあったんですか？  
 小川 いや、もうずっと小さい頃から農業やろうって決めてたの。ただ、教育学部に入っていたので、小学校の教師もやってみたくて、中退しちゃったんで25歳だったし、じゃあもう、すぐやろうってことになって。



藤本 ほお。25歳っていうことは、結構な留年ですね（笑）。  
 小川 結構、しました（笑）。しかも察にいたんで。  
 藤本 じゃあもう、主みたいな（笑）。  
 一同 ははははは（笑）。  
 藤本 「あの人に挨拶したか!」みたいな。  
 一同 ははははは（笑）。  
 小川 そんな感じだと思う。  
 藤本 大学に入る前、章吾さんがまだこちらにいた頃のお父さんって、どういう感じでしたか？  
 小川 当時はもうとにかく働いてましたね。寝る暇もなく、夜もヘッドライトつけて、やりましたね。

藤本 そのときから、ぶどうですか？  
 小川 ぶどうでしたね。議員もやりましたし。忙しかったと思います。  
 矢吹 それに加えて、子育ても。  
 小川 ちょうど高校だと、弁当も作らないといけないから、大変だったと思いますね。  
 藤本 お母さんが亡くなられたとき、章吾さんはおいくつだったんですか？  
 小川 12歳ですね。  
 藤本 そっか。その後中学、高校、大学と、お父さんはずっと稼いできてくれたわけですね。  
 小川 そうですね。  
 藤本 そういうのって、子どもとしては、あんまりわからないもんじゃないですか。稼いでいくことの大変さみたいなものって。  
 小川 そうですね。わかってたら、卒業して……。  
 一同 ははははは（笑）。  
 藤本 そうですよ。そこまでわからせないのもなかなかのもんですね。でも何かきっかけがあったんですか？  
 小川 いや、ほんと周りがいなくなっただけ。そういう主の仲間もいたんですけど。その人すらいなくなっただけ。2000年になる頃だったの。

「あー限界だなー」と思って。

一同 ははははは（笑）。

藤本 20世紀も終わるぞ、と（笑）。でも、そこらいきなりっていつても大変ですよ。

小川 そうですね。何もわからないで、一から全部教えてもらったんですけど、ああいう感じの親なので、もう厳しくてですね。説明も、気持ちでくるんで。

藤本 あー。

小川 なので、かなり最初の頃はぶつかりましたね。ちっちゃい頃はあんまりぶつかなかったんですけど、同じ仕事をやるようになると、すごくぶつかりましたね。  
 一同 ふーん。  
 小川 30歳過ぎぐらいまでですかね。  
 藤本 なるほどー。その5年ぐらいがしんどい時期？  
 小川 そうですね。はい。  
 藤本 その頃はお父さん、何されてたんですか？

小川 議員を辞めるあたりで。その後、町長選に出るか出ないかぐらいだったと思います。  
 藤本 なるほどー。それはそれで、お父さんも忙しい。  
 小川 そうです。議員とその町長選の

間に1回辞職しているので、1年間、空白があって、その1年間だけ、2人で一緒にやっていたのが、最初で最後なんですけど。

藤本 なるほどー。で、その後に町長に？  
 小川 （町長に）なったので、町長の仕事をしながら、少し手伝ってもらって形でやりました。  
 藤本 そうすると、断片的に見られるから、余計にまた。  
 小川 作業が遅れてくると、知らない間に人に頼んで、仕事させてるんですよ。そうすると、カチーンと。  
 一同 ああー。  
 小川 思いやりなんだと思うんですけど。  
 矢吹 でもねえ。自分で思ったことをされちゃうと。  
 小川 遅れてるのは重々わかってたんです。はい。  
 藤本 そういう自分への苛立ちもありますしね。  
 小川 寝ないで働いた人なんです。どうしてもその、もどかしく見えるらしくって。「もっとやれるはずだ」と。  
 藤本 よく言われましたね。  
 藤本 そういう意味では、いまの健吉さんはすごく変わったんじゃないです

か？

小川 ああ、変わりました。まず、私の仕事のことには何も言わなくなりましたし。だいたい、歳取ったのか、丸くなってる。  
 藤本 健吉さんは、「いまが親子関係が一番いいときかもしれない」って。  
 小川 そうかもしれないですね。  
 藤本 ぶどうの仕事をはじめた当初は経済的にどうでしたか？  
 小川 2人でやっているときは全然、大丈夫でした。やっぱり、ひとりでするとなると、やりきれなくて。年々こう落ちていって、豪雪でドンとやられちゃって。いま、だいたい復活したかなってぐらいで。  
 藤本 なるほどー。2人でやってた

きはいていたのに。ひとりになっただけとんこう……。

小川 そうです。目に見えて……。

藤本 それはつらいな。

小川 やっぱり面積があるので、どう考えてもひとりじゃやれないんですけど、ひとりでやることに固執してて。そうすると、いいのが全然穫れなくなって。悪いほう、悪いほうに。  
 藤本 じゃあいまはひとりでやらなくなっただけですか？  
 小川 いや、大雪でドンとぶどう棚が潰れたときに、ぶどう棚はあるんで





すけど、木はないって状態になって、余裕でひとりやれるようになって。

一同 ああ。

小川 それで被害の翌年に苗木を新植して、いま徐々に収量が上がってきてる状況です。

藤本 はあ。なるほど。

小川 現在は自分のやれる範囲がわかってるので、いまはひとりで頑張ろうと。でもこの先、以前の状態まで収量が上がったら、アルバイトなども考えようかなと。

藤本 健吉さんが「おもしろい農業をやりたい」って仰っていたのがすごく印象的だったんですが、おもしろくなってきたですか？

小川 おもしろくなってきましたね。藤本 シンプルに、お父さんのどういうところがすごいと思いますか？

小川 やっぱり、行動力と、後は人を巻き込む力がすごいなあと思います。自分でみんまでやるっていうのが、すごく得意っていうか引き寄せる力があるんだろうなと思います。

藤本 僕たちは健ちゃんファミリーって呼んでるんですけど(笑)。

小川 みんなが集まってくるんですけど、謝、感謝」っていつも言ってる健吉さんに、逆に僕たちから感謝の気持ちを伝えられないかと思っていて。それで、父親に直接感謝を伝える機会なんてふつうはないと思うんですけど、例えばそういうコーナーを作らせてもらって、この2日間でお父さんにお手紙を書いていただいて。

小川 ええ!!

藤本 読んでいただくことができないかなって。どうですかね？

小川 いや〜……。

藤本 自分だったら嫌なんですけど(笑)。

一同 ふふふふ。

小川 全く考えてなかった……。

藤本 そうですよー。そりゃ、そうだと思うんですけど、でも「いま一番いい関係だと思ふ」っていう、そういう

藤本 ねー。本当に道の駅が一つ屋根の下で。

小川 そうですね。やっぱり楽しい場を作るのが昔から好きな人だったんで。

藤本 ほんとに、なんか、根っからの寂しがり屋だなと思って。

小川 そうなんですよ。家に帰るともう、シユンとする。

一同 ははははは。

藤本 そんな人が奥さんを早く亡くされてしまつて……ね。

矢吹 どういうお母さんだったんですか？

小川 母親は優しくかったですね。どちらかっていうと母親似なんですよ。

矢吹 穏やかな感じですね。

小川 話し方もこんな感じだったって言われます。

矢吹 健吉さんのお話を受け止める感じの。かただったんですかね。

小川 そう……耐える感じの。

藤本 お母さん似なんです。

小川 はい。

一同 ふふふふ。

藤本 健吉さんの持っている忍耐力とか包容力とか。いま、僕たちは、そういうふうになった健吉さんしか知らないのかもしれないけど、僕らの印象としては、すごくお母さんのな部分

も感じるんです。息子たちのこともあるし、いろいろそういう役割もあったのかなあと思って。

小川 二役やらないといけなくなったんで、そうなったのかもしれないですね。

藤本 本当に「いま一番いい時期かもしれない」って言ってる姿がたまらなくよくなって。それは逆に言うと、これまでいろいろ大変だったんだろうなあって。

小川 そうですね。片親で不自由したことは全くないので、その分頑張ってくれたんだろうなあと思いますね。

藤本 いま、お子さんいらっしゃるから、余計に思う事もあるんじゃないですか。

小川 そうですね。

藤本 あー、今日は8日ですけど、10日の日曜日ってお休みですか？

小川 まあ、はい。

藤本 道の駅で、いつもお芝居やっているじゃないですか。実は僕たちも密かにステージを借りて、健吉さんに劇を見せたいと画策してるんです。5月10日ってちょうど母の日なんですよね。健吉さんはお父さんなんですけど、さっきのお話のようにお母さんの役割も果たしてくれた人だから、「感



矢吹 「はい」って言わざるを得ない。藤本 僕らもこの取材を通して得た事を含め、健吉さんに感謝を伝えたいんですけど、章吾さんからこれまでの感謝を伝えてもらうということ

小川 ない、ですね。

矢吹 ないです、ないです。

藤本 お願いしていいですか？

小川 はあ……。

一同 (笑)。

ういまだからこそ、感謝みたいなことを。お願いできないかなあ。

小川 いやあ……。

藤本 でもそういう気持ちがないわけじゃないですよ。

小川 そう、ですね。

藤本 こんなことって、こんな機会がないと、絶対ありえないと思うんですけど。

小川 ない、ですね。

矢吹 ないです、ないです。

藤本 お願いしていいですか？

小川 はあ……。

一同 (笑)。

章吾さんに無茶なお願いをして、夕方、僕たちは再び道の駅へ。明後日ステージが空いていることを確認した後、そもそも健吉さんがその日にいらっしゃるかを確認します。が、ここで衝撃の事実が！ な、なんと健吉さん、明後日は仙台出張でいないとのこと。ってことは、あ、あ、明日、やらなきゃいけないってこと……!!? げえええー!!! 全員 真っ青になりました。

## 衝撃の事実

一同 よろしくお願いします!!

章吾さんに無茶なお願いをして、夕方、僕たちは再び道の駅へ。明後日ステージが空いていることを確認した後、そもそも健吉さんがその日にいらっしゃるかを確認します。が、ここで衝撃の事実が！ な、なんと健吉さん、明後日は仙台出張でいないとのこと。ってことは、あ、あ、明日、やらなきゃいけないってこと……!!? げえええー!!! 全員 真っ青になりました。





# 幕が あがる!!

最終章



## 計画練り直し

関西に住む僕や、東京に住む写真家の浅田くんなど、県外メンバーのスケジュールと、秋田在住メンバーのスケジュールを調整した上で、今回の取材にあてられる日程は初日の表紙撮影を含めてわずか4日間。すでに2日が経ち、残された2日間を最大限に活かすければよいと考えていた僕たちですが、最終日は肝心の健吉さんが仙台出張という事実が発覚し、全員顔面蒼白。しかしなんとか気を取り直して計画を練り直します。とにかく、こうなれば劇団のんびり初公演は明日にするしかありません。まずは明日ステージが空いていることを確認し、さらに章吾さんにも電話をして、事情を説明。ただ明日はお昼過ぎまで章吾さんの息子さんとの運動会があるとのこと、それが終わってからなら

OKとのこと。ということで、公演の時間を夕方5時半に決定。当然健吉さんにも、夕方からの時間を押さえていただき、あとは肝心のシナリオ作りです。

## 果たしたいこと

実は僕には、今回のお芝居を考えるにあたって、一つ果たしたいことがありました。それは道の駅十文字のキャラクターさくらんぼあちゃんに、い



ま一度光を当てたいということでした。一般公募から選ばれたキャラクターターさくらんぼあちゃんは、十文字が誇るさくらんぼがキャラクター化されていること以上に、早くして奥さんを亡くされた健吉さんの、女性に対する尊敬と希望の象徴なんじゃないかと僕は感じていました。さくらんぼが擬人化されたキャラクターのアイデアは他にもあったと想像します。しかし、女性に長生きしてもらいたいと心から願う健吉さんにとって、それはおぼあちゃんでなきゃだめだったのだと思います。だからこそ僕は、今回のお芝居のタイトルを、まっすぐ「さくらん

ぼあちゃん物語」にすることだけ決めていました。

とにかくそこまでをのんびりチームで共有し、衣装の手配の関係から、舞台を道の駅十文字にしてしまうことまでを決定。そうすれば赤いエプロンさえお借りできれば、なんとかなります。そして肝心の章吾さんのお手紙サプライズへの流れをみんなで喧々譁々話し合うのですが、あまりの急展開に頭が浮かびませんが、なかなかよいカタチが浮かびません。そもそも明後日が母の日ということと、それに伴い、今朝お話を伺った和泉芳治さんが納品するカーネーションが手に入ることもあって、何かしらその状況を活かしたシナリオにすることまでは共有しつつ、今日は一旦、秋田市内へ戻る事にします。



## 5月9日

午前8時半、あらためてやってきた道の駅十文字。まさかの公演当日。本当に今日の夕方に公演ができるのか？不安で押しつぶされそうになるなか、僕は夜中のうちに考えたシナリオをみんなに説明します。そして大まかな配役を決めると、僕は早速シナリオを完成させるべく執筆タイム。お昼過ぎになって、ようやくまとまったシナリオがこちら。





劇団のんびり初公演

明日は母の日！  
母ちゃんばあちゃんに  
感謝を！

## 『さくらんぼ ばあちゃん物語』

※ステージ上、なにかと忙しく動き回る赤いエプロンを着たスタッフたち。

〈影ナレーション／藤本〉

ここはある道の駅。そこにはいつも不思議なキャラクターが座っているのです。そのキャラクターの名前は「さくらんぼばあちゃん」。実はこのさくらんぼばあちゃんには秘密があるのです。その秘密とは……おっと！今日も道の駅の営業がはじまるようです。駅長がやってきましたよ。

〈駅長／矢吹〉

はい、みなさんおはようございます。今日も朝礼をはじめたいと思います。明日は母の日ということでカーネーションもたくさん用意しています。われわれにとってお客さんたちは母のよ

うな存在です。そんなお客さんへの感謝を忘れず今日も笑顔で頑張りましょう。

〈スタッフたち／浅田・田宮・山口〉  
はい！

〈駅長／矢吹〉

では、ほかに誰か報告や質問などありますか？

〈新人スタッフ／山口〉

あの〜。

〈駅長／矢吹〉

おっ どうした新人！

〈新人スタッフ／山口〉

あの〜いつも気になってたんですが、これいったいなんなんですか？  
※さくらんぼばあちゃんを指差す。

〈駅長／矢吹〉

ああ〜まだ説明しなかつたねえ。実はこれはね、さくらんぼばあちゃんといって、十文字が誇る、さくらんぼと元気なばあちゃんたちを表現したマス

コトなの。でも、本当のばあちゃんたちには、馬鹿にしているように思われてしまつて……。実際は、母さんがたを尊敬しているからこそ、公募のなかから選んだキャラクターなだけけどね。

〈新人スタッフ／山口〉

じゃあ、その思いをわかってもらえるように、さくらんぼばあちゃんと母の日を一緒にPRしたらどうでしょうか？

〈駅長／矢吹〉

うん？ どういうことだ？

〈新人スタッフ／山口〉

たとえば、「十文字のお母さんたちの象徴、さくらんぼばあちゃんにカーネーションを贈ろう！キャンペーン」ってどうでしょうか？

〈駅長／矢吹〉

おお〜なんだかわからないけどおもしろそうだな。それやってみるべ。

※場面転換（音楽）

〈スタッフ／浅田〉

さあみなさん、明日は母の日！ ぶだんはなかなか伝えられない自分のお母さんへの思いを道の駅十文字の母、さくらんぼばあちゃんにカーネーションとともに伝えてみませんか？

〈お客さん1／服部〉

うん？ なんかおもしろそうね。ちょっとやってみようかな……。

〈スタッフ／浅田〉

ぜひぜひ、お願いします！ まいどあり〜。

※カーネーションを渡してお金をもらおう。

〈お客さん1／服部〉

じゃあカーネーションをここに置いて、と。おかあさん、いつもありがとう。

〈お客さん2／陽馬〉

おらもやってみるべ！

〈スタッフ／浅田〉

お〜ぜひぜひまいどあり〜。

※カーネーション渡してお金をもらう。

※それぞれアドリブで感謝の気持ちを。

※以降何人かその繰り返し、最後に駅長がやって来る。

〈駅長／矢吹〉

おっ キャンペーンはどうかね？

〈スタッフ／浅田〉

はい、おかげさまで好評で、カーネーションもあと一束になりました。最後に駅長いかがですか？

〈駅長／矢吹〉

お〜そうか。じゃあまあおれもやってみるかな。ただおれは母さんにでなくて、前の駅長の健吉さんに感謝を伝えたいんだ。いいか？

〈スタッフ／浅田〉

いいですね。ぜひぜひ。では、はい、カーネーションを。

〈駅長／矢吹〉

お〜ありがとうありがとう。じゃあ、小川健吉さん、聞いてください。

※ヤブちゃんアドリブで、今回の取材の感謝の気持ちを。

〈影ナレーション／藤本〉

僕たち、のんびり編集部は、今回3日間の取材を通して、ここ道の駅十文字に込められた小川さんの思いをさまざまに場面面で感じてきました。リーダーの言葉やトイレの生花。朝礼の後の朝

ごはん。陳列を直す際に込められた生産者のみなさんへの愛。ポランティアのみなさんひとりひとりの優しさ。この町で働くことを決めた若者たちの姿など。この道の駅十文字という一つ屋根の下、健ちゃんこと小川健吉率いる、健ちゃんファミリーの絆の強さが、この道の駅を支えているのだという

ことをしっかりと感ぜさせてもらいました。なので、ここからは僕たちのんびりチームからの、ささやかなプレゼントです。ここで、さくらんぼばあちゃん

の秘密を明かすことにします。実はこのさくらんぼばあちゃん。みんなの感謝の気持ちがたくさん集まつ

て、カーネーションがいっぱいになったそのとき、さくらんぼばあちゃん自ら、語りはじめるのです。ここで健吉

さん、ステージが上がってもらえますでしょうか？

※さくらんぼばあちゃん（鍵岡）真真中に移動。

※マイクも移動。

※カーネーションいったん回収↓陽馬ブーケに。

〈影ナレーション／藤本〉

さあ、耳を傾けてみてください。さくらんぼばあちゃんが、ゆっくと感謝の気持ちを伝えてくれるはずですよ。

※章吾さん、ステージ裏のマイクで手紙を読む。

※拍手で締める。

※章吾さん、カーネーションの花束と手紙をもつて登場。お父さん（健吉さん）に渡す。

〈影ナレーション／藤本〉

さあ、最後は道の駅十文字音頭で締めましょう。みなさんご一緒に〜  
※道の駅十文字音頭歌う

終幕。



設定とおおよその台詞を確認して、それぞれが役作りするなか、ヤブちゃんを中心になって等身大の「さくらんぼばあちゃん」を制作。これがなかなかのクオリティでテンションが上がります。公演の時間が刻々と近づきます。今度は自分たちで足場を用意しステージ作り。さらにマイクやBGMなど細かな音響を確認して、いよいよ公





演30分前の午後5時、ヤブちゃんの電話にこっそりと章吾さんから電話がかかってきます。健吉さんにバレないように車の中で待機してもらい、そこで今回のシナリオと段取りについて大急ぎで説明します。健吉さんが客席に座られた事を確認して、章吾さんは裏口からスタンバイ。怒濤のような展開で練習時間もままならないですが、もう腹を括ったのんびりチーム。客席には、秋田チームが周辺にお住まいの友だちに電話してくれたこともあって、突然の告知にもかかわらず、30人ほどのお客さんが来てくれました。時間は午後5時半。いよいよ開演です!!!



全く初めてにも関わらず、なかなかいい役者っぷりの、のんびりチーム。浅田さんと陽馬のやりとりに爆笑するお客さんを袖から眺めながら、僕ははっと胸を撫で下ろしていました。そしていよいよサブライズの時間。緊張のなか、ステージに上がってきたくださった健吉さんに向かって、章吾さんがお手紙を読んでもいただきます。そのお手紙を、章吾さんの許可のもとこちらに記します。読んでください。





嬉しくも照れながら戸惑うふりをしていた健吉さんでしたが、章吾さんに花束をもらって、まるで何かが爆発したかのように泣き出す健吉さんの姿に、僕たちも客席もみんなが大号泣でした。この町を支える父子が握手しあう姿に、僕は地方の幸福な未来を想像しました。愛に溢れるこの道の駅十字文は、秋田の誇りであり、日本の未来の一つのカタチだと強く思います。



あ、そういえば、最後に神さまから僕たちに一つプレゼントがありました。客席でこの劇を見てくれていたひとりの女性が僕に一言。「さくらんぼばあちゃん、私が考えたんです。端っこでしゃんぼりかわいいそうだと思うっていたので、こんなふうにしてあげてあげようと思いました」。僕はもう一泣きしちゃいました。



## 父さんへ

折角こういう場を頂けたので、真面目に書いてみました。聞いて下さい。

小さい頃、父さんは、ただただ怖い存在でした。今と変わらない大きな声で怒られると、小さな私は本当に震えていました。冬の間、出稼ぎのため東京に行って家を空けているとき、すごく家の中が穏やかだったのを覚えています。

自分が12才の時、母さんが亡くなり、婆ちゃんも亡くなりました。男三人が家に残り、子どもながらに大丈夫か心配でした。でも大丈夫でした。父さんは怒らなくなり、やさしくなりました。家の中は少し整理できていませんでしたが、朝夕のご飯、高校の時の弁当に困ることはありませんでした。その時も父さんには感謝していました。農業、議員の仕事の他、アルバイトもしていました。怒らなくなったのも、精一杯頑張っているからだと分かっていました。ただ今、自分が親になって、今の自分より若かった父さんが子ども二人を一人で育てなければいけなくなったことを思うと、以前の感謝の気持ちとは比べられない感情がでてきます。改めてありがとうございました。

感謝の気持ちは常にありましたが、同じ農業を職業とすることになって、父さんとは、衝突が多くなりました。仕事ができないのに手を出して欲しくない子どもと、我慢できず私に内緒で手を出してしまう親という構図でした。

作業小屋のドアに鍵をつけて、手伝わせないようにしたこともありました。山ほどしなければいけない仕事はあるのに、父さんのように夜ヘッドライトまでつけて農作業をすることに否定的でした。そこまでしなければいけない農業って本当に仕事として成立しているのかと考えていました。

そんな私も、ようやくですが事業主としての自覚が少しはでてきたのでしょうか？  
今では繁忙期にはヘッドライトをつけて当たり前作業しています。  
今現在、父さんは道の駅の事業主、私は生産者という立場です。  
外で働く姿は、道の駅ができるまで、あんまり見ることはありませんでした。  
今の道の駅の元気で温かみのある活気は父さんそのものだと感じます。

周りの方々に協力してもらい、また巻き込んでワイワイやっている姿に、カッコよさまで感じています。ただ職員の方々や道の駅を応援してくれている方々は父に振り回されすぎないよう程ほどお願い致します。

最後に孫はまだ小学一年生になったばかりです。また私はまだ親孝行ができていません。体には十分気をつけて、一年に一度健診くらい受けて下さい。これからも農作業を含めいろいろとよろしく願います。

息子 小川 章吾







今回、秋田に来てくださったのは、料理家の冷水希三子さん。  
冷水さんというお名前にもぴったりの「清水の郷」、仙北郡美郷町をご案内し、「ちょうどいいかんてん」のアイデアを膨らませてもらいます。

**冷水希三子** (料理家 フードコーディネーター)

季節の食材を使い食材の声を聞いて料理することを大切に、本や雑誌、広告でのレシピ製作やスタイリングなどを行なう。2015年7月にアノニマスタジオから「ハーブのサラダ」が出版される。

**清水めぐり**



お台所清水、ニテコ清水、藤清水……、町のそこそこで、野菜を冷やし、子どもたちが水遊びをし、暮らしとともに清水があります。



**寒天使  
りっちゃんのお宅へ。**

毎日寒天を流しているという「りっちゃん」こと照井律さん。  
この日作ってくださったのは、たまご寒天、稲庭うどんと梅酢の寒天、バナナと黒糖の寒天、お豆腐の寒天の黒蜜がけの4種類！



りっちゃん特製のお昼ご飯！ 秋田の家庭の味を体感できて、大感激!!



食材、お料理、そして寒天のこと……冷水さんとりっちゃんのおしゃべりは止まりません!



ち  
よ  
う  
ど  
い  
い  
かん  
てん

秋田のお母さんたちが作る「天使の寒天」は秋田のおもてなし料理の定番。でも、手軽に美味しいものが手に入り、味覚も変わってきているなかで、秋田の若い人たちのあいだでは作ることも、食べることも少なくなっています。さらに県外では、秋田にこんな寒天文化があることすら知られていません。これまでの寒天文化を大切にしながらも、新しい観点で楽しめる「ちょうどいいかんてん」はないものでしょうか？  
ここはもう、新たな風を送り込むしかない！  
料理家さん！ 秋田に来て「ちょうどいいかんてん」作ってもらえませんか？

Photo: 船橋陽馬/高橋希 (P.46)

第1回  
ひやみずきみ  
**冷水希三子さん**  
と美郷町  
みさとちやう

「天使の寒天」とは？

秋田のお母さんたちは、何でも寒天で固めてしまいます。甘いものから、しょっぱいものまで、おもてなしの心で寒天を作り、さまざまなメニューを生み出しているお母さんたち。このように、寒天を使いこなす人たちは、誰もが「寒天使い」=「寒天使」といえます。そんな寒天使たちが作った寒天を「天使の寒天」と呼んでいます。



## 空豆とジュンサイの寒天

材料 空豆 20さや  
 ジュンサイ 150g  
 木の芽 適量  
 青柚子の皮 適量  
 棒寒天 2本  
 鰹昆布出汁 1100ml

酒（栗林酒造「春霞」） 50ml  
 塩 適量  
 薄口しょうゆ 小さじ2杯  
 砂糖 ひとつまみ  
 \*水は美郷町の湧き水「ニテコ清水」を使用

美郷町を旅してくださった冷水さん。  
 さあ、冷水さんにとって、  
 ちょうどいいかんてんって  
 どんなものなのでしょう？



### 1.

棒寒天はたっぷりの水で一晩戻しておく。空豆はさやから出して熱湯で2～3分茹でて薄皮もむく。



### 2.

鍋に鰹昆布出汁と酒を入れ沸かして、1の寒天の水気を絞り細かく割いて加え、溶けるまで煮て、塩と薄口しょうゆ、砂糖で味を調え濾す。



### 3.

濾したものに、木の芽の葉と青柚子の皮のすりおろしを加え混ぜる。



4. 型に空豆とジュンサイを入れ、3を流し入れて冷やす。



「ニテコ清水」にて、今回の寒天作りに欠かせない、美味しい湧き水を汲みます。



栗林酒造へ  
 明治7年創業の酒蔵。  
 全国でも人気の銘柄  
 「春霞」は、  
 この町の豊かな水から  
 生まれます。

## 山ぶどうのかご



居酒屋にも寒天が！ 山菜・アイコの豆乳寒天寄せ。



「高良酒店」で出会った、手作りの山ぶどうのかごは、凜とした冷水さんの佇まいにぴったり。迷いに迷った末、ついに冷水さんのお手元へ。

## 「美郷町とかんてん」

冷水希三子

初めての東北、初めての秋田。どんな景色のもと、どんな人々がどんな生活をしているのか、そして、どんな美味しいものが待っているのか!! ワクワクしながら車窓に流れる景色を見ていると、たくさんの湧き水があるという美郷町に着きました。ちょっと歩いただけで、たくさん湧き水に出会えることにびっくり。この町の人にとって昔からこの湧き水は生活の一部だったのかと思うと、とても感動しました。

そんな美郷町に住む、寒天使「りつちゃん」こと、照井律さんが作ってくれた、お昼ご飯。山菜を使った煮物、漬物、りつちゃん家の穫れたてアスパラ、お赤飯まで、すごい品数のお料理に加えて、寒天料理も4種類!! どれもとっても美味しく、何より、寒天の使い方の多様さに驚きました。

さらに「春霞」という銘柄で有名な、栗林酒造さんの蔵を拝見させていただき、この町の水がいかにたくさん美味しいものを生み出しているかを知ります。蔵元の栗林直章さんに解説いただき、買って帰った「春霞」。とってもきれいでなめらかな美味しいお酒でした。

旅を経て、さあ、どんな寒天を作ろうかな？

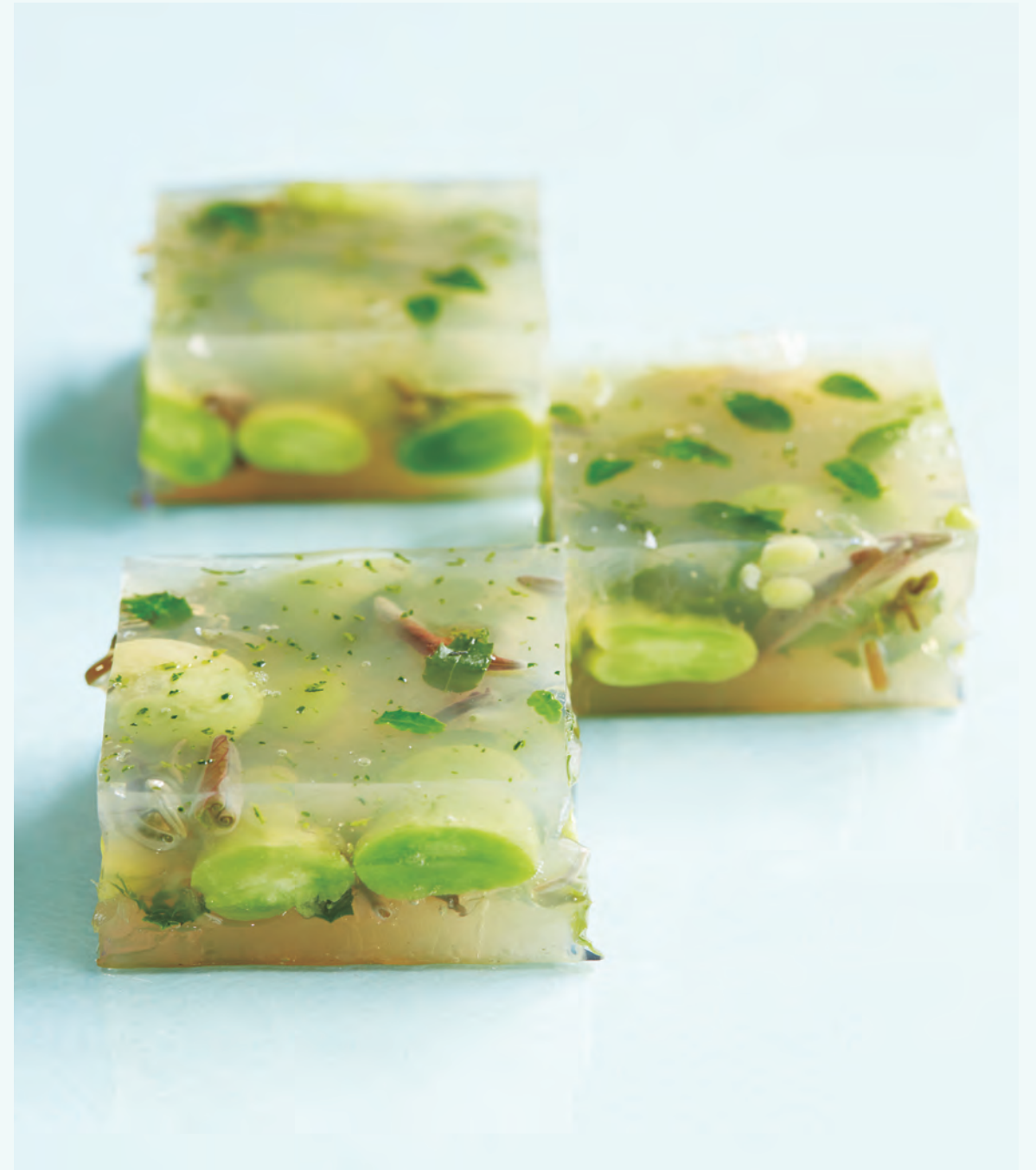


お だて  
大館  
曲げわっぱ  
柴田慶信商店

# はぐくむ 道具

「曲げわっぱ」。秋田名物の代名詞ともいえる伝統的工芸品ですが、ここ数年のお弁当の人気から、全国的にも注目が高まっており、特にお弁当箱などは、数カ月待ちの商品も少なくないほどの人気ぶり。しかし、その多くが秋田県大館市で作られていることは、あまり知られていないのでは？ そして、秋田県民ですら、当たり前すぎて、曲げわっぱの本来の魅力をよくわかっていないもの……。

あらためて、曲げわっぱのことを知りたいと、大館市「柴田慶信商店」を訪ねました。



## 冷水さんの、ちょうどいいかんてん

新緑が美しい、美郷町の清水の風景を思い描いた寒天です。初夏の季節的な食材を、寒天のきれいな乳白色の中にやさしい味わいで詰め込みたいと考えました。空豆の黄色い緑、秋田と言えば！な、ジュンサイのくすんだ緑、さらに木の芽の緑や青柚子の皮の緑……と様々な緑が折り重なり固まることで、口に運ばれた瞬間一気に本領発揮する、それぞれの風味と食感を楽しんでください。





柴田慶信商店 2代目  
よし まさ  
**柴田昌正**さん

### 美味しく冷ます道具

うちの曲げわっぱの一番の特徴って、何だと思えますか？ 答えは、無塗装なんです。他社ではウレタン塗装しているものも多くありますが、全くもって違うんです。求めることが、うちの商品を求めるのは「美味しいものを食べたい」という方、ウレタン塗装のものを求めるのは「曲げわっぱを使いたい」という方です。

おかげさまで、お客さんからは、うちの一番って言われています。「やっぱり美味しい。使ったらやめられない」って。曲げわっぱは、お弁当箱もお櫃もそうですけれど、「ご飯を美味しく冷ます」道具なんです。ご飯を傷まなくする道具じゃないですよ。何でも作りたて、炊きたてが一番美味しいんですが、お弁当で冷めてから食べると、冷めたときにも美味しく保つことができるのが、無塗装の曲げわっぱです。余分な水分を吸ってくれるんです。

本来曲げわっぱは、それが長所なんです。でもそれをウレタン塗装することによって消してしまっているんですよ。洗いやすい、汚れにくいのが良いなら、プラスチックでいいじゃない



い。こちらは汚れやすいかもしれないけれど、とにかく、ごはんが美味しいし、ちゃんと手入れをしたらええ長く使えますから。

でも、曲げわっぱは買ったからといって「一生もの」になるわけではないんです。例えばお弁当箱なら、日々手入れをして、壊れないように途中で漆を塗ったりすることで、10年でも使えます。そうやって、使い手と作り手によって手を加えていくことで、一生に近い年月使えるようになるわけです。手間ひまかけることが、美味しくご飯を食べる一つの条件なんです。

### 変わらないために、 変わっていく道具

これは、先代の父が集めたもので、日本の古いもの、海外から集めた曲げものを展示しているのですが、これが我々のものづくりのヒントです。今、伝統的工芸品の海外展開が推し進められていますけれど、そこですぐに定着して売れるものなんてないと思うんですよ。やっぱり、海外の地域の文化や使われてきた道具を知ること、どこにも通用するものを作るんじゃないかと。だから、父親が集めてくれたものが、ものすごく役立っています。やっぱり日本のものとは用途が違いますね。むこうにも伝統的な行事があって、そこで使われる道具はすごく魅力的で、歴史を経て今ある道具なんだな、と感じます。

それでも、昔から作られているものって、変えようがないんです。削いで削いで削いで、出来上がった形なので、それをそこから良くするっていうのは、



とてもとても……。デザイナーが手を加える余地なんてないんです。だからあとは現代の暮らし方に合わせて変えていく。「変わらなく使ってもらうために、変わらなきゃならない」。面倒く



さい言い方ですが、昔から使われてきたものを今の生活に合ったものにするために、形を変えたりというよりは、サイズや用途を変えて「こうして使うと今の人も豊かになるよ」とか、そんなことを提案していくこと。自身を豊かにしない道具はいらないので、うちで大事にしていくもので「丸三宝」と

いう、お正月の鏡餅や十五夜のお餅を載せたりする道具があります。普通は四角いものをイメージすると思うんですけど、元々は丸で、これが曲げものの始まりともいわれいて、何百年

も前からある形ですが、今は大きいものも小さいものも作っています。小さいものって昔は使わなかったんですよ、ね、家が大きいです。けど、日本の都会の住宅事情に合わせて使ってもらいたいのと、これは一年の始まりに使うものですから、そういう文化を伝えていくためにもずっと作っていきたくて思っています。角が多いなかで、伊勢神宮や出雲大社では、まだ丸三宝を使っているんですよ。形も凛としてるじゃないですか。デザイナーは全く変えていません。変えられないです。







### 「楽しい」から生まれる道具

これは材料になる樹齢150年以上の天然の秋田杉で、これ12尺(約360センチ)以上あるんですよ。うちは節のないものを使っていて、材料としてはものすごく高価なんです。「今手に入る最高の材料でものを作る、それをお客さんに提供する」それが一番なのでね。私も作る側ですが、作り手が一番気持ちいい仕事をするには、材料も一番いいものを使うのいいと思っています。父から学んだのもやっぱり「楽しく

作る」ということです。楽しく作ったものは、それがお客さんにも伝わると思うので。あとは、手間ひまを惜しまずいっぱいかけて、そのぶんしっかり代金をいただく、ということ。安くしようとか、いっぱい売ろうとか思わないで「しっかりときれいに作れば、その分ちゃんと返ってくる」と思えば、そのほうが楽しいですよ。私のモットーは「楽しく儲けなきゃいけない」ですから。でも、苦しいときがないと、楽しくはないので、今は苦しい時かもしれないけど……よくやってきていますよ、うちのスタッフは。



### 人を成長させる道具

私たちは、ただ、道具だけを作ってるわけではないと思っています。でも、自己満足にならないようにしないと。そのために、買っていただく努力もしています。ものは、良くて当たり前なんです。一流ブランドってそうじゃないですか。なぜお店まで行って買のかっていったら、そのおもてなしを受けたいからなんです。販売員の所作だったり、接客、対応……そういうのも大事だと思っています。

うちのお客さんは、きっちりした人や、きっちり生活したいという人が多いです。うちの商品を使ったおかげで「自分がしっかりすることができた」という声もあります。そんなふうには「この道具を使って自分が成長できた」と言っていたりするものづくりを、次の代まで繋いでいければと思います。

東京にも販売店がありますが、お客様の立場になって一番合うものを提案したいといけません。だから、世間的な会話を大事にしています。「お子さんいらっしゃるんですか? 中学2年生なんですかね」とか、そういうところから。スタッフには「柴田の曲げわっぱのファンでありながら、あなたのファンになってもらえようように接客してください」と言っています。







「かくまき」一九七〇年

# 詩修

## 詩人が描く 池田修三の言葉

池田修三の版画に寄せた、  
詩人たちの書き下ろし作品

8

### 友部正人

#### 角巻きの思い出

どこか遠くを見ていると  
ぬくもりが欲しくなってくる  
ぼくを作ったぬくもりが  
とても恋しくなってくる

駅で電車を待っていたら  
悲しみがぼくに近づいて来て  
故郷のことを話します  
ぼくに故郷はないけれど

やがて始まるその時刻まで  
毛布にくるまって待ちましょ  
う  
女の人はおもちを焼いて  
小さな口に入れました

町長の演説をさえぎって  
春がピストルを撃ちました  
心凍えていたものたちはいっせいに  
山のでっぺんをめざします

どこか遠くを見ていると  
ぬくもりが欲しくなってくる  
どこか遠くその距離は  
ぼくがこれから歩く道



スタッフのみなさんのお昼ごはんの  
時間。やはりここでも曲げわっぱのお  
弁当箱が並びます。「美味しさは違う  
ものですか?」と尋ねるや否や「全然  
違いますよ!」とみなさん笑顔で即答。  
そこまでの自信を自分でも実感した  
い!と、お弁当箱を一つ購入したと  
ころ「これで幸せに一步近づけました  
ね!」と柴田さん。  
そんなみなさんの言葉を受けて、後  
日、ワクワクしながらお弁当の蓋を開  
けると、噂どおりの美味しさとともに、  
背筋が伸びるような感覚が走りまし  
た。  
それは、この工房の実直なものづく  
りへの感謝であり、ここから、この曲  
げわっぱを使い続けることで、自分の  
暮らしが育まれる……そんな関係がス  
タートしたことへの、心地よい緊張感  
でもありました。

友部正人 1950年東京生まれ。シンガーソングライター、詩人。高校卒業後、名古屋の路上で歌い始める。1972年、「大阪へやって来た」でレコードデビュー。1996年、ニューヨークに部屋を持ち、以降日本と行ったり来たり暮らし。2015年、5年ぶりの新作詩集「バス停に立ち宇宙船を待つ」(ナナログ社)を刊行。

池田修三 1922年秋田県にかほ市象潟町生まれ。版画家。秋田県内の高等学校美術科教諭を退職後、1955年に上京し版画に専念する。主テーマは子どもたちの情景で、晩年は風景画も手がける。作品は企業カレンダーや銀行の通帳、「広報きさかた」の表紙などにも使われる。2004年82歳で死去。



**航空**

東京(羽田)⇄秋田 ANA/JAL … 約65分  
 大阪(伊丹)⇄秋田 ANA/JAL … 約80分  
 札幌(新千歳)⇄秋田 ANA/JAL … 約55分  
 名古屋(中部国際)⇄秋田 ANA … 約80分  
**【リムジンバス】** 秋田空港～秋田駅西口(約35分)  
 東京(羽田)⇄大館能代 ANA … 約70分  
**【リムジンバス】** 大館能代空港～大館市内(約55分)  
 大館能代空港～北秋田市(鷹巣)(約15分)  
 (ANA)0570-029-222 (JAL)0570-025-071

広い秋田を存分に楽しみたい僕は、フェリーを使って車ごと秋田入りすることもしばしば。敦賀発秋田経由のフェリーは便数が少ないのが難点だけど、青い空と青い海に挟まれながらの、のんびり移動は最高の幸福!



**藤本流  
のんびりフェリーの旅**



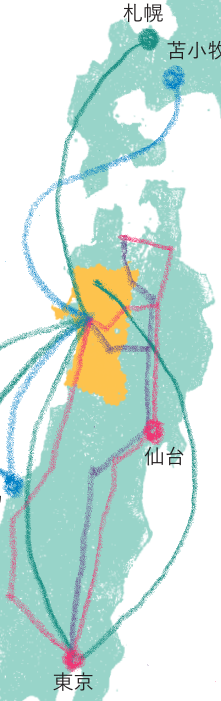
**新日本海フェリー**

**北行** 敦賀(10:00)⇄新潟(22:30)⇄秋田(翌5:50)⇄苫小牧東(17:20)  
**南行** 苫小牧東(19:30)⇄秋田(翌7:45)⇄新潟(15:30)⇄敦賀(翌5:30)

●秋田港から秋田市街へは車で約30分。(秋田中央交通バスのご利用も可能)  
 〈秋田フェリーターミナル〉  
 018-880-2600  
 運航スケジュールは必ずお問合せください。

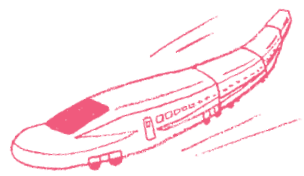
**高速バス**

仙台⇄秋田 … 3時間35分(仙秋号)  
 東京⇄秋田 … 8時間30分(フローラ号)深夜バス  
 横浜⇄秋田 … 9時間40分(ドリーム秋田・横浜号)深夜バス  
 〈秋田中央交通(フローラ号・仙秋号)〉018-823-4890  
 〈JRバス東北秋田支店(ドリーム秋田・横浜号)〉018-862-9461  
 ※秋田市以外の市町村を往復する便も複数あります。



**秋田新幹線 こまち**

仙台⇄秋田 最速2時間5分  
 大宮⇄田沢湖 最速2時間21分  
 東京⇄秋田 最速3時間37分  
 (JR東日本テレフォンセンター) 050-2016-1600



**浅田流  
のんびり新幹線の旅**

真っ赤な新型こまちはとにかくカッコいい! ホームへ颯爽と入ってくると、みんな思わずカメラを構えてしまいます。心地よい座席でひと眠り、シャキーンと起きて、午前11時には取材先にいることも……。秋田ってこんなに近いのか? そう感じることも間違いなし! レッドビーム!

**自動車(高速道路利用)**

仙台⇄秋田 … 約3時間30分  
 東京⇄秋田 … 約7時間30分  
 〈日本道路交通情報センター(秋田センター)〉050-3369-6605

**non-biri akita access map**

**大館市**

**有限会社 柴田慶信商店 (P51~)**

大館市御成町2丁目15-28  
 TEL 0186-42-6123

**【電車】**  
 秋田駅 | JR奥羽本線(1時間50分)  
 大館駅 | 徒歩(5分)  
 柴田慶信商店

**【自動車】**  
 秋田駅 | (10分)  
 秋田中央IC | (1時間5分)  
 ニッ井白神IC | 国道7号(1時間)  
 柴田慶信商店

**美郷町**

**名水市場 湧太郎 (P46~)**

清水や周辺地域の情報をすることができます。  
 仙北郡美郷町六郷字馬町83  
 TEL 0187-84-0020

**【電車】**  
 秋田駅 | JR奥羽本線(50分)  
 大曲駅 | タクシー(15分)  
 名水市場 湧太郎

**【自動車】**  
 秋田駅 | (10分)  
 秋田中央IC | (30分)  
 大曲IC | 国道13号(15分)  
 名水市場 湧太郎

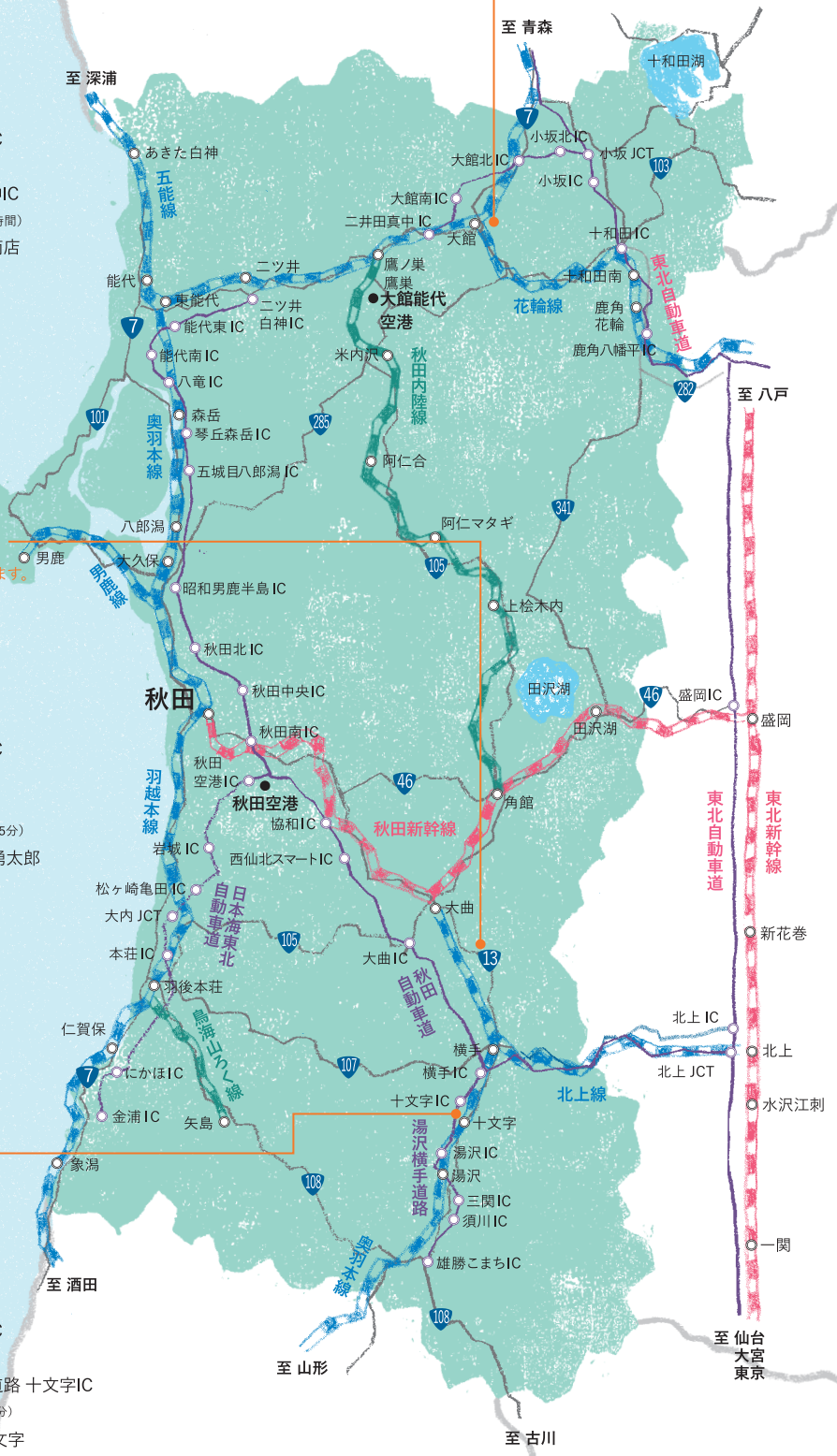
**横手市**

**道の駅 十文字 (P4~)**

横手市十文字町字海道下21-4  
 TEL 0182-23-9320

**【電車】**  
 秋田駅 | JR奥羽本線(1時間40分)  
 十文字駅 | 徒歩(15分)  
 道の駅 十文字

**【自動車】**  
 秋田駅 | (10分)  
 秋田中央IC | (45分)  
 湯沢横手道路 十文字IC | 国道13号(3分)  
 道の駅 十文字







のんびり公式ウェブサイト

<http://non-biri.net>

Enquête  
and  
Present

『のんびり』をお読みいただきありがとうございました。  
アンケートにご協力ください。

『のんびり』は人を基軸に「あきたのほんとう」をまっすぐ伝えるマガジンです。本号へのご感想、今後とりあげてほしいテーマなどのご要望、ご提案を、ハガキか「のんびり公式ウェブサイト」のアンケートページからお寄せください。抽選で『のんびり』オリジナルプレゼントをお贈りいたします。応募メ切は2015年8月31日(月)。当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。

※個人情報プレゼントをお届けするために利用し、その目的以外の利用はいたしません。

PRESENT N

ぶどう  
葡萄ジュース

プレゼントの応募は終了いたしました

(丸型)



2  
名様

P33に登場した、小川章吾さんの葡萄を使った果汁100%のジュースです。

(写真と内容が異なる場合がありますこと、ご了承ください。)



1  
名様

P51に登場した柴田慶信商店の天然秋田杉の美しい曲げわっぱのバターケースです。

のんびり公式ウェブサイト <http://non-biri.net>

ハガキでご応募の場合

- ① 郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、メールアドレス
  - ② 本誌の入手先 ③ 今後とりあげてほしい話題 ④ 今号で面白かった記事(複数回答可)
  - ⑤ ご感想 ⑥ 希望のプレゼント
- 以上をハガキに明記の上、ご応募ください。

宛先 〒010-0021 秋田市榎山登町7-14 のんびり合同会社 のんびり編集部



のんびり

13

2015.Summer

2015年7月15日発行

STAFF

編集長  
藤本智士 (Re:S)

編集  
矢吹史子  
田宮 慎  
今井春佳  
山口はるか (Re:S)

アートディレクション & デザイン  
堀口 努 (underson)

デザイン  
澁谷和之 (澁谷デザイン事務所)

写真  
浅田政志  
鍵岡龍門  
船橋陽馬  
高橋 希 (オジモンカメラ)

題字・イラストレーション  
スタタカミツ

似顔絵  
田渕志織

デザインアシスタント  
小阪温視  
古里凌哉

動画  
近藤康洋 (mel digital co.,Ltd)  
佐藤 努 (mel digital co.,Ltd)

大道具  
大谷 心

発行  
秋田県  
観光文化スポーツ部観光戦略課あきたびじょん室  
Phone : 018-860-1073

編集  
のんびり合同会社 のんびり編集部  
〒010-0021 秋田市榎山登町7-14  
Phone & Facsimile : 018-832-8086  
Mail : info@non-biri-go-do.jp

印刷・製本  
秋田活版印刷株式会社

\* 乱丁・落丁誌はお取り替えます。  
\* 本誌内容の無断転記、記載、複写はご遠慮ください。  
\* 本誌データは2015年6月11日現在の情報です。  
あらかじめご了承ください。  
\* 本誌は「あきたびじょん」マガジン等企画制作業務委託業務で制作いたしました。  
©nonbiri all rights reserved.